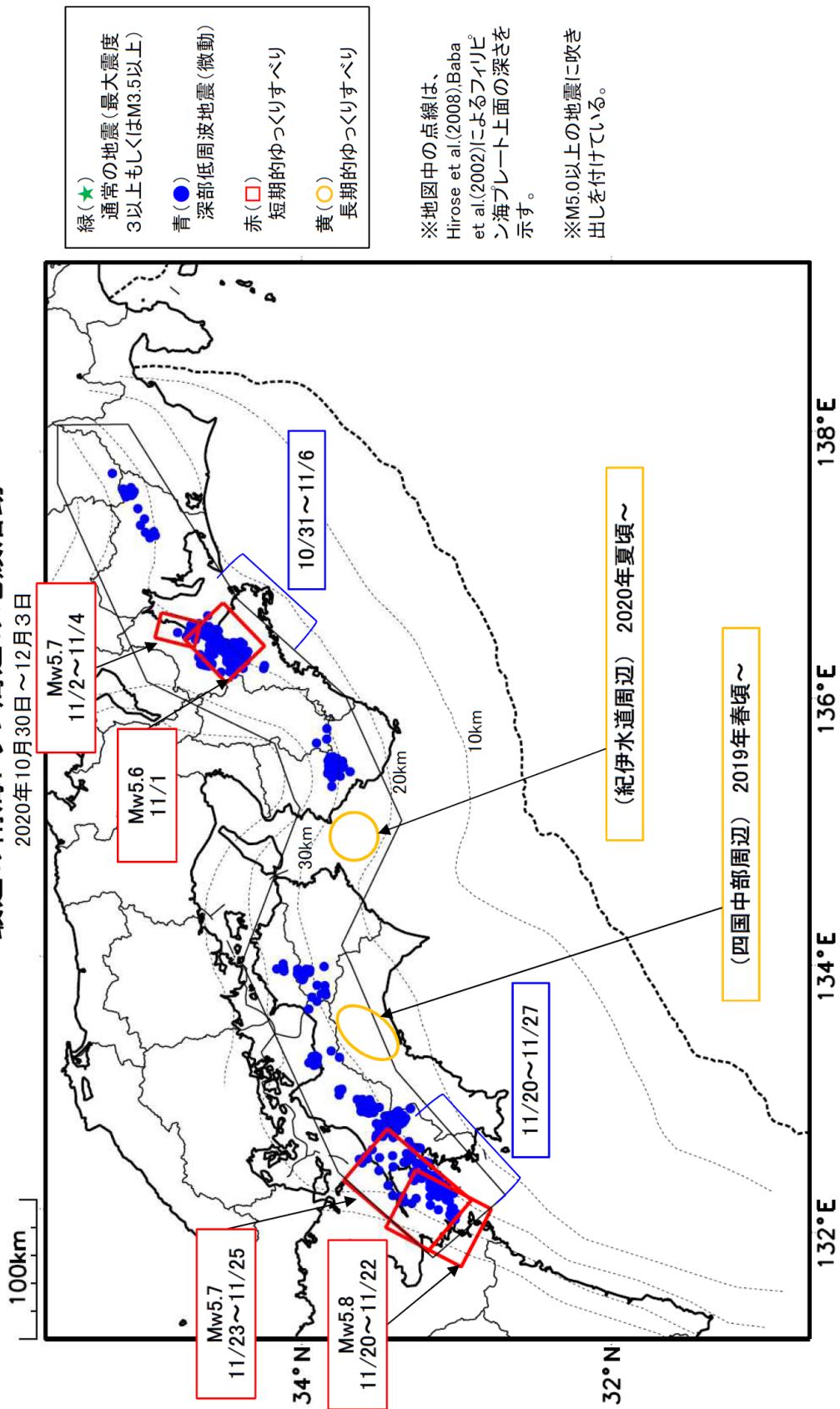


最近の南海トラフ周辺の地震活動

2020年10月30日～12月3日



※地図中の点線は、
Hirose et al.(2008), Baba
et al.(2002)によるフイリピン海プレート上面の深さを
示す。

※M5.0以上の地震に吹き
出しを付けている。

通常の地震（最大震度3以上もしくはM3.5以上）……気象庁の解析結果による。
深部低周波地震（微動）……………（震源データ）気象庁の解析結果による。（活動期間）気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果による。
短期的ゆっくりすべり……………【紀伊半島北部、四国西部】産業技術総合研究所の解析結果による。
長期的ゆっくりすべり……………【四国中部周辺、紀伊水道周辺】国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

令和2年11月1日～令和2年12月3日の主な地震活動

○南海トラフ巨大地震の想定震源域およびその周辺の地震活動：

【最大震度3以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震及びその他の主な地震】

特に目立った活動はなかった。

※震源の深さは、精度がやや劣るものは表記していない。

※太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く。

○深部低周波地震（微動）活動期間

四国	紀伊半島	東海
■四国東部 11月11日～12日 11月20日 11月26日～27日	■紀伊半島北部 <u>11月1日～6日^{注1)}</u> . . . (1) 11月8日 11月26日	11月19日～20日 11月26日～27日 12月3日～（継続中）
■四国中部 11月4日 11月9日 11月30日 12月2日～（継続中）	■紀伊半島中部 (特段の活動はなかった)	
■四国西部 10月30日～11月2日 11月6日 11月8日 11月10日～13日 11月15日～17日 <u>11月20日～27日</u> . . . (2) 11月29日～（継続中）	■紀伊半島西部 11月8日～9日 12月1日	

※深部低周波地震（微動）活動は、気象庁一元化震源を用い、地域ごとの一連の活動（継続日数2日以上または活動日数1日の場合で複数個検知したもの）について、活動した場所ごとに記載している。

※ひずみ変化と同期して観測された深部低周波地震（微動）活動を赤字で示す。

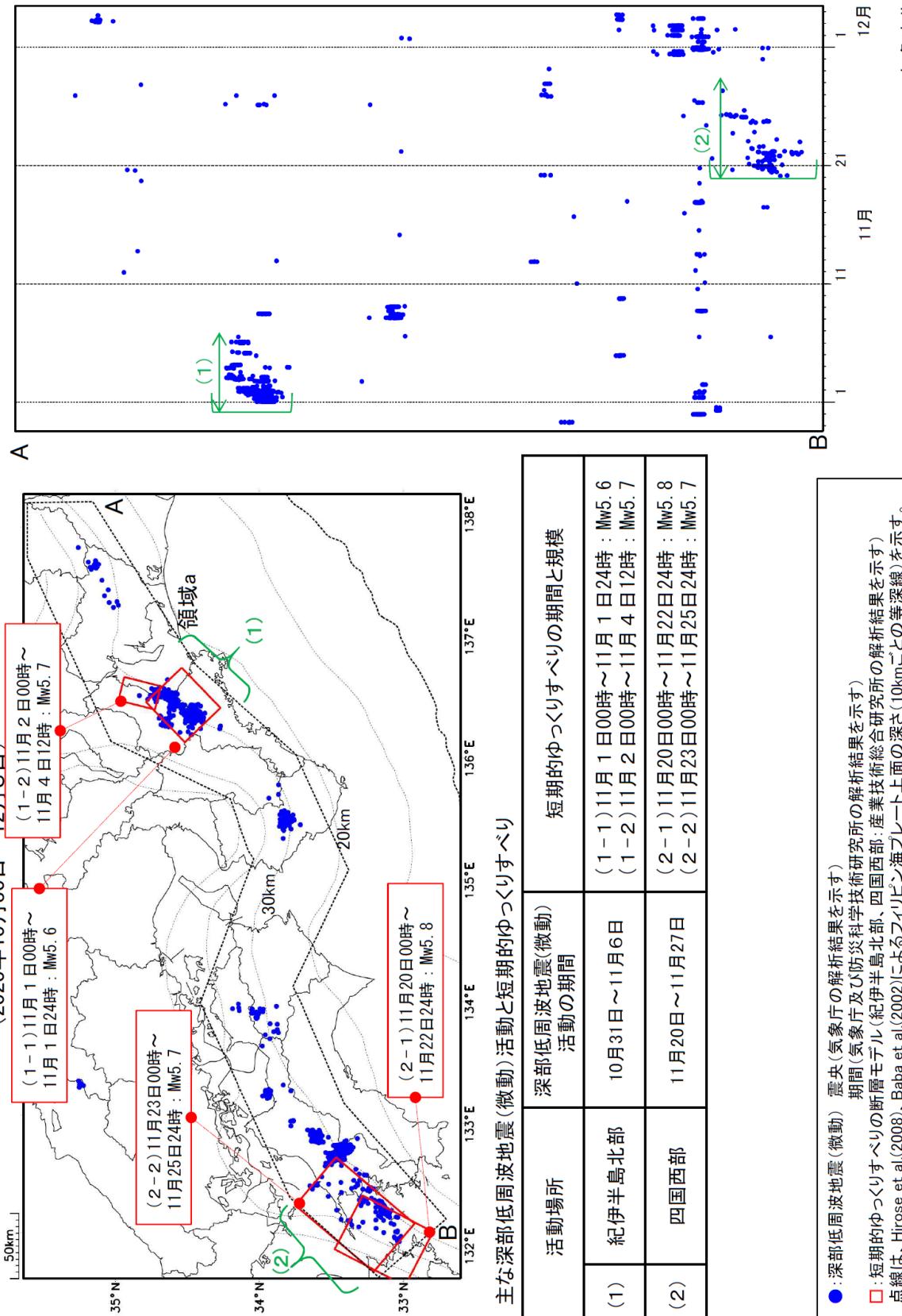
※上の表中（1）、（2）を付した活動は、今期間、主な深部低周波地震（微動）活動として取り上げたもの。

注1) 防災科学技術研究所による解析では、10月31日頃から活発な微動活動が見られた。

気象庁作成

深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべりの全体概要

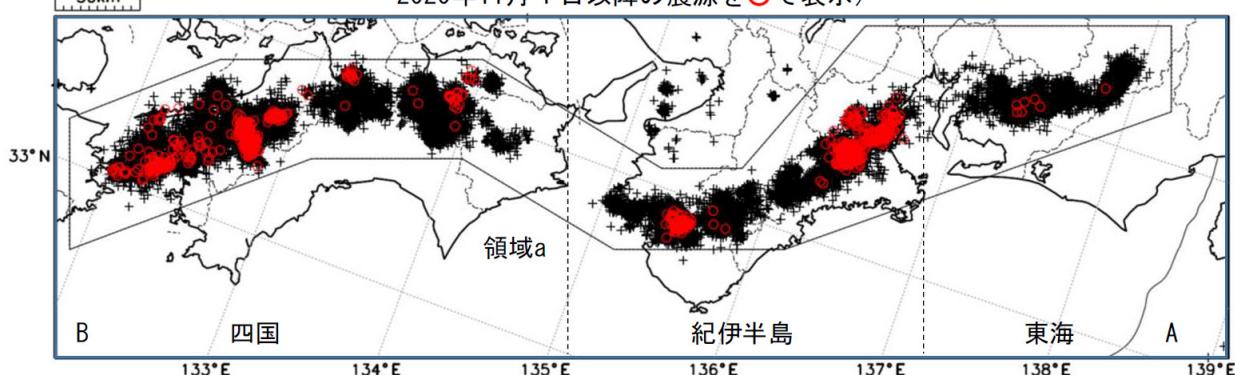
領域a（点線矩形）内の深部低周波地震（微動）の時空間分布図（A-B投影）
 （2020年10月30日～12月3日）



深部低周波地震（微動）活動（2010年12月1日～2020年11月30日）

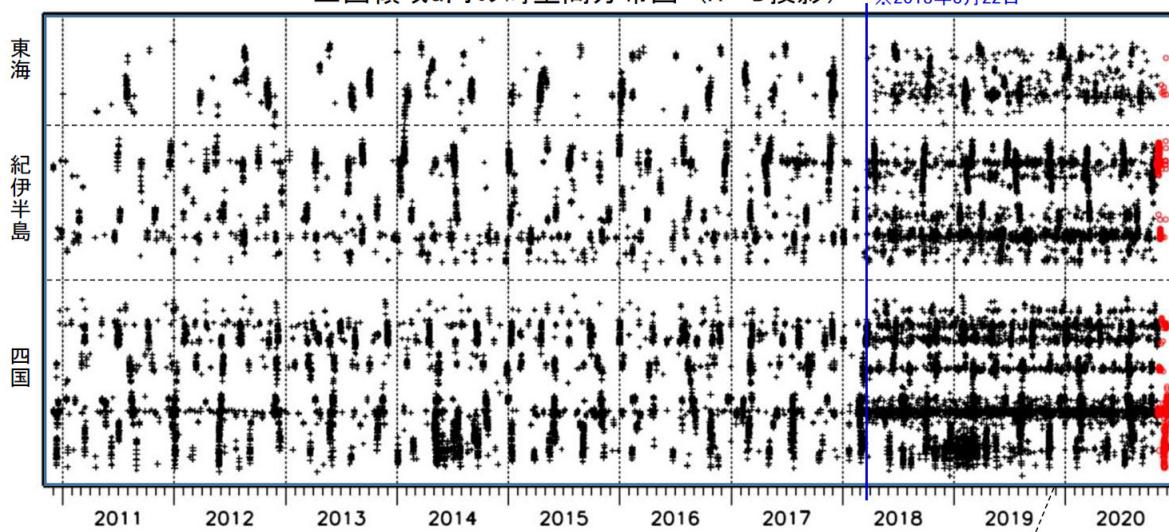
深部低周波地震（微動）は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。

震央分布図（2010年12月1日～2020年11月30日：過去10年間
2020年11月1日以降の震源を○で表示）

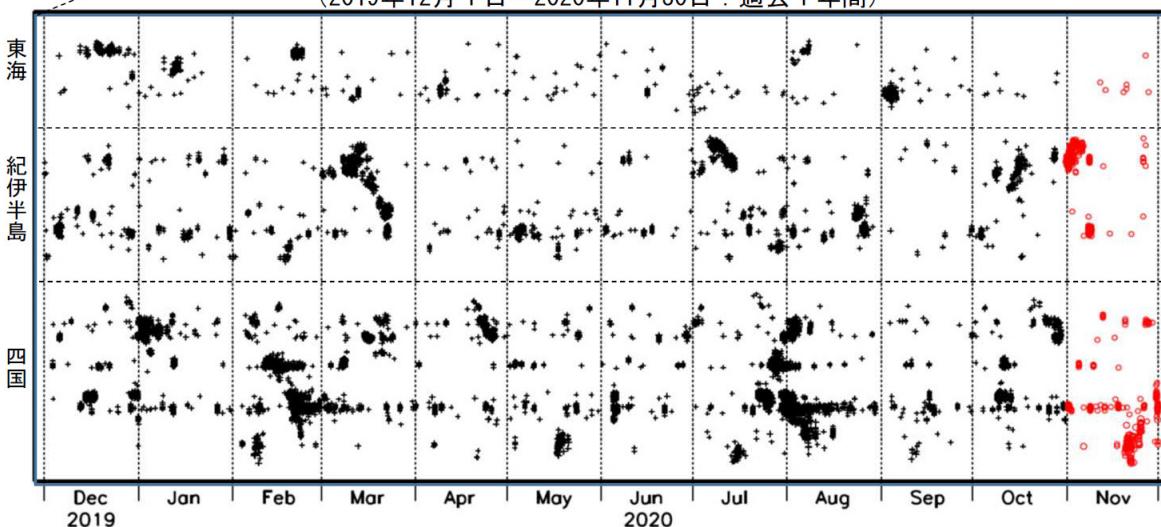


上図領域a内の時空間分布図（A-B投影）

※2018年3月22日



(2019年12月1日～2020年11月30日：過去1年間)



※2018年3月22日から、深部低周波地震（微動）の処理方法の変更(Matched Filter法の導入)により、それ以前と比較して検知能力が変わっている。

気象庁作成

紀伊半島・東海地域の深部低周波微動活動状況 (2020年11月)

- 10月31日～11月6日頃に紀伊半島北部において、活発な微動活動。

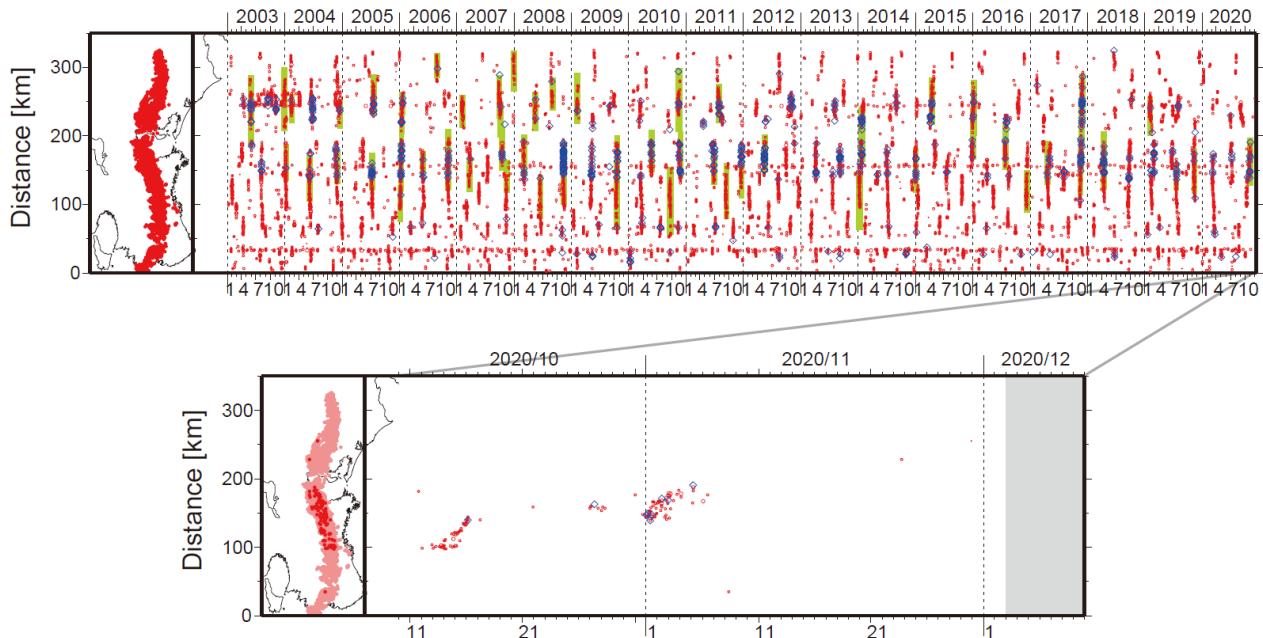


図1. 紀伊半島・東海地域における2003年1月～2020年12月2日までの深部低周波微動の時空間分布(上図)。赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリッド法(Maeda and Obara, 2009)およびクラスタ処理(Obara et al., 2010)によって1時間毎に自動処理された微動分布の重心である。青菱形は周期20秒に卓越する超低周波地震(Ito et al., 2007)である。黄緑色の太線はこれまでに検出された短期的スロースリップイベント(SSE)を示す。下図は2020年11月を中心とした期間の拡大図である。10月31日～11月6日頃には三重県中部から北部において活発な微動活動がみられ、三重県中部から活動が開始し、北東方向への活動域の移動がみられた。活動に際し、傾斜変動から短期的 SSE の断層モデルも推定されている。

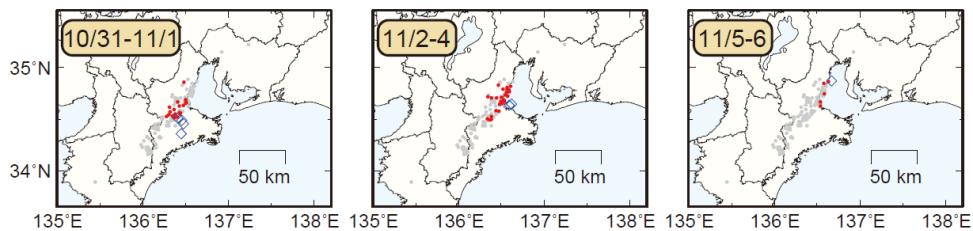


図2. 各期間に発生した微動(赤丸)および深部超低周波地震(青菱形)の分布。灰丸は、図1の拡大図で示した期間における微動分布を示す。

紀伊半島北部の深部低周波地震（微動）活動と 短期的ゆっくりすべり

11月1日から6日にかけて、紀伊半島北部で深部低周波地震（微動）を観測した。この活動は北東方向への活動域の拡大がみられた。

深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震（微動）活動

震央分布図（2018年4月1日～2020年11月23日、

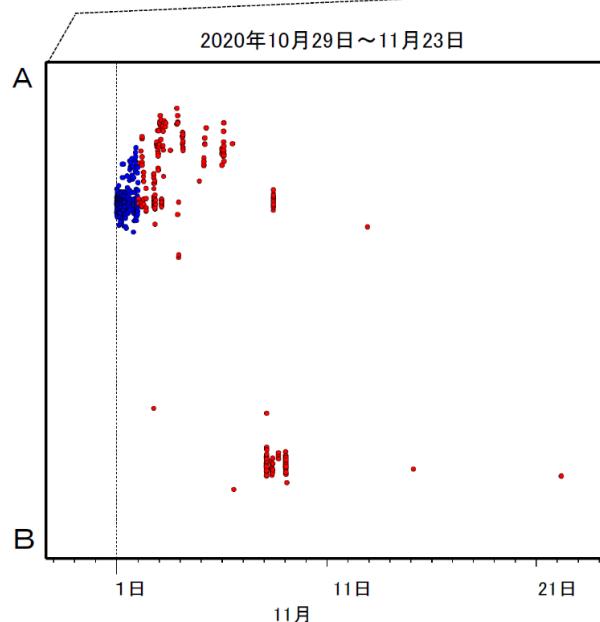
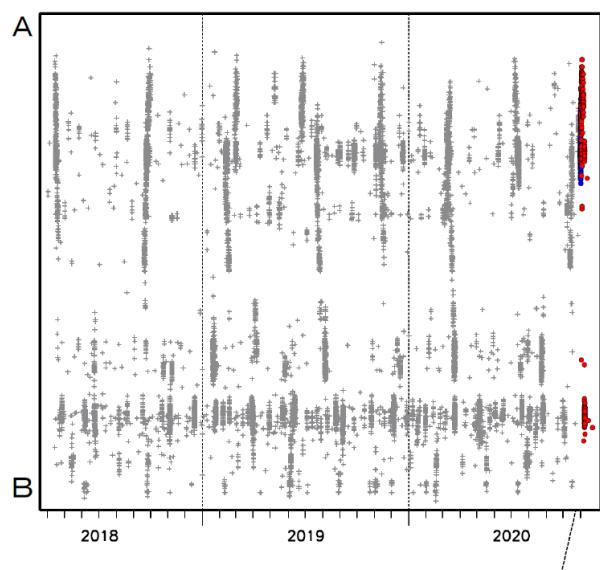
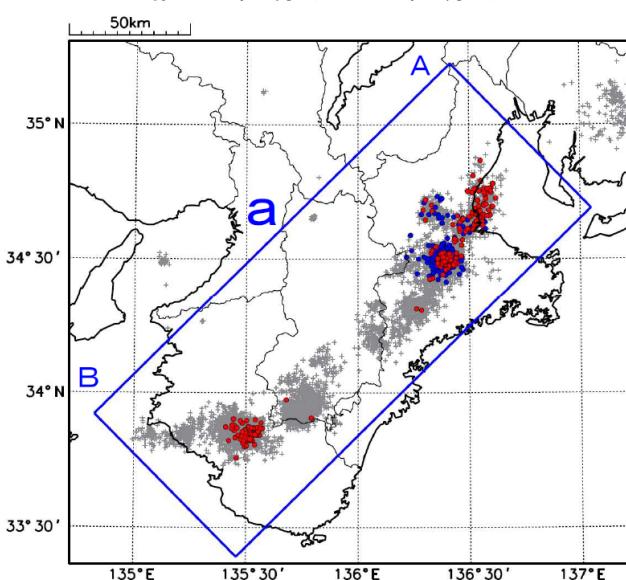
深さ0～60km、Mすべて）

灰：2018年4月1日～2020年10月31日、

青：2020年11月1日、

赤：2020年11月2日～2020年11月23日

震央分布図の領域a内の時空間分布図（A-B投影）



気象庁作成

令和2年11月 地震・火山月報（防災編）

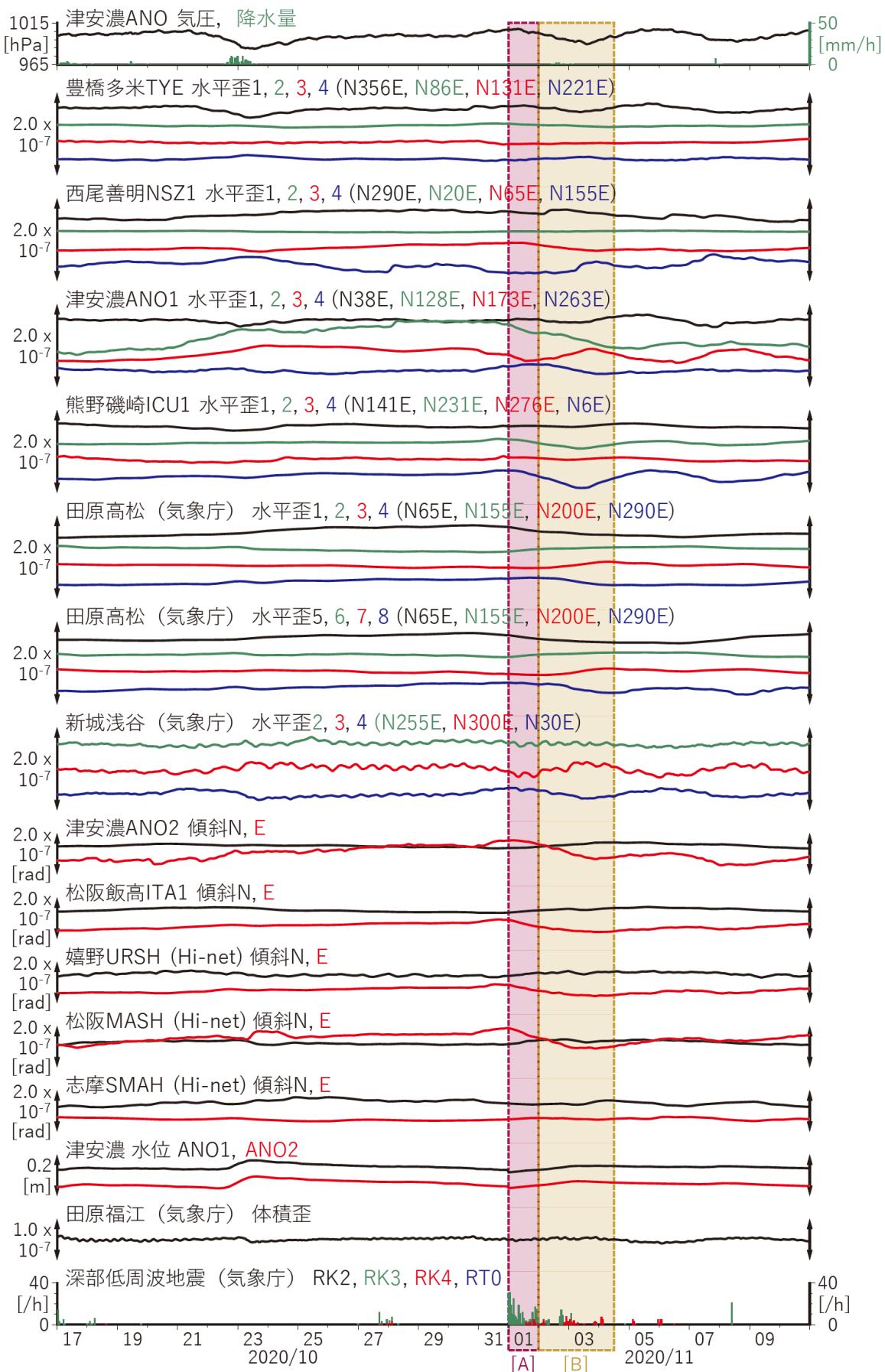
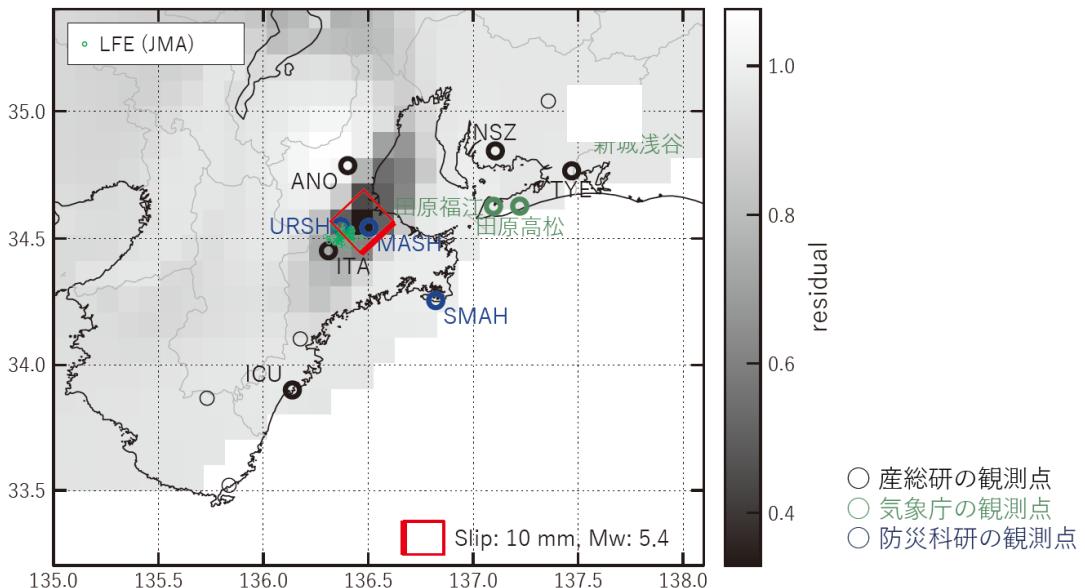


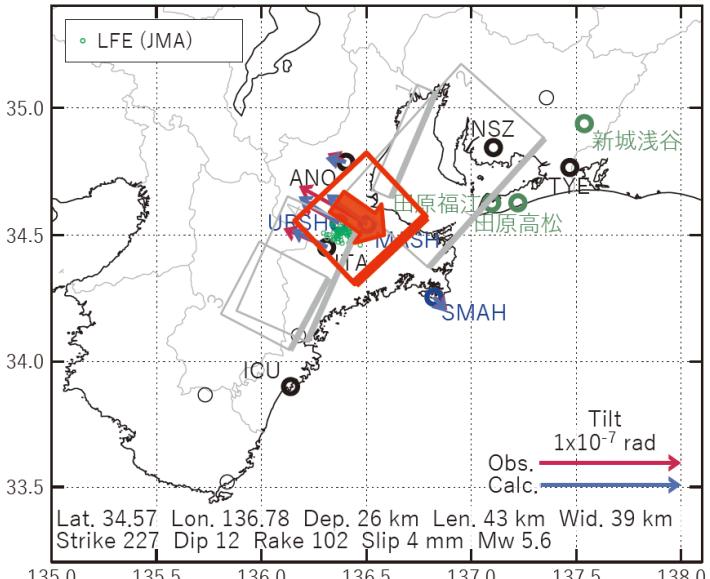
図2 紀伊半島～東海地方における歪・傾斜・地下水観測結果 (2020/10/17 00:00 - 2020/11/11 00:00 (JST))
産業技術総合研究所 資料-10

[A] 2020/11/01

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



(b3) 体積歪

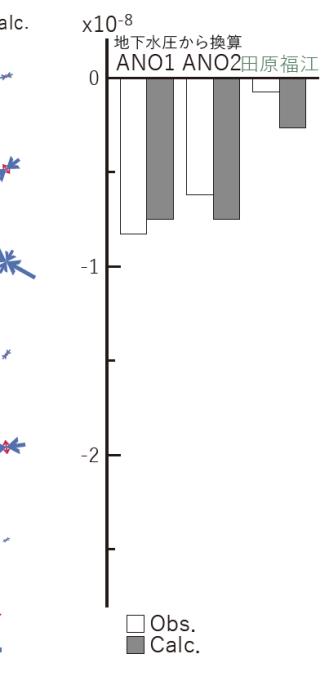


図3 2020/11/01の歪・傾斜・地下水変化（図2[A]）を説明する断層モデル。

- (a) プレート境界面に沿って 20×20 km の矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの、対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
 (b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。

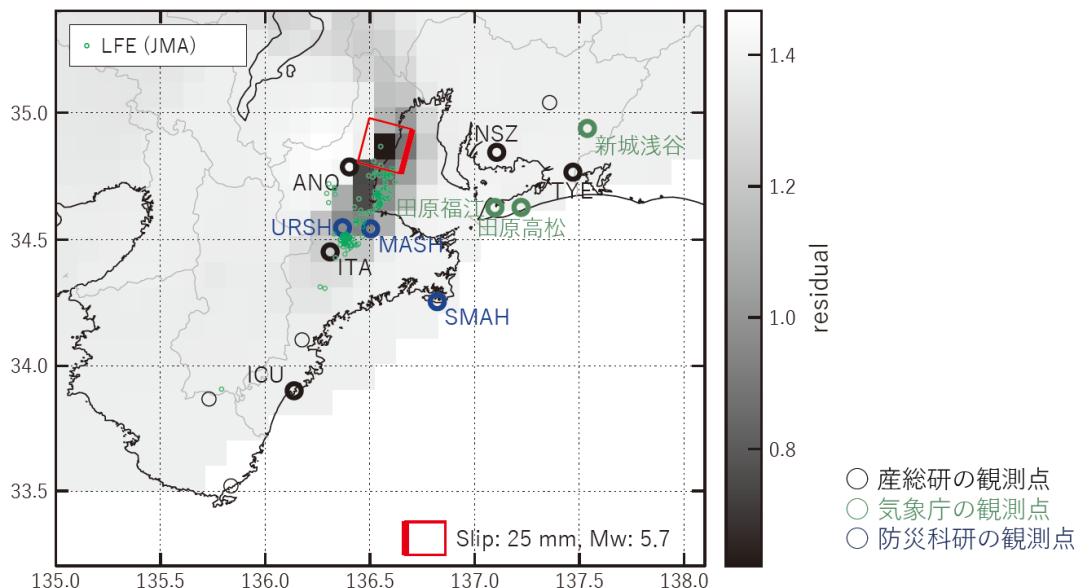
1: 2020/07/06-08AM (Mw5.9), 2: 2020/06/30PM-07/03 (Mw6.1), 3: 2020/10/13PM-15AM (Mw5.7),
 4: 2020/10/15PM-16AM (Mw5.6)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

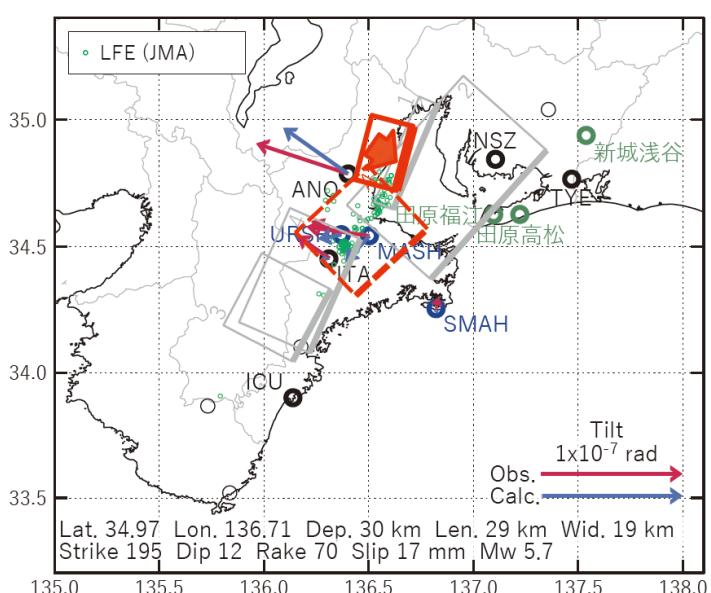
(b3) 体積歪（地下水圧から換算）の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[B] 2020/11/02-04AM

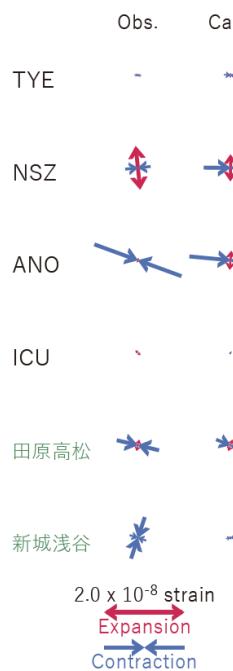
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



(b3) 体積歪

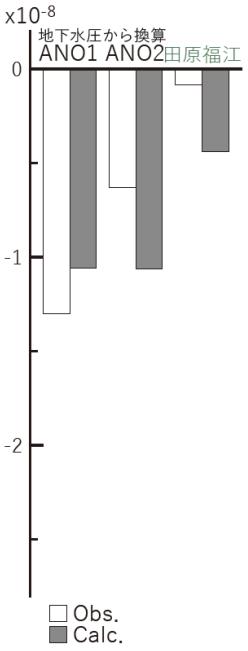


図4 2020/11/02-04AMの歪・傾斜・地下水変化（図2[B]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って 20×20 km の矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの、対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

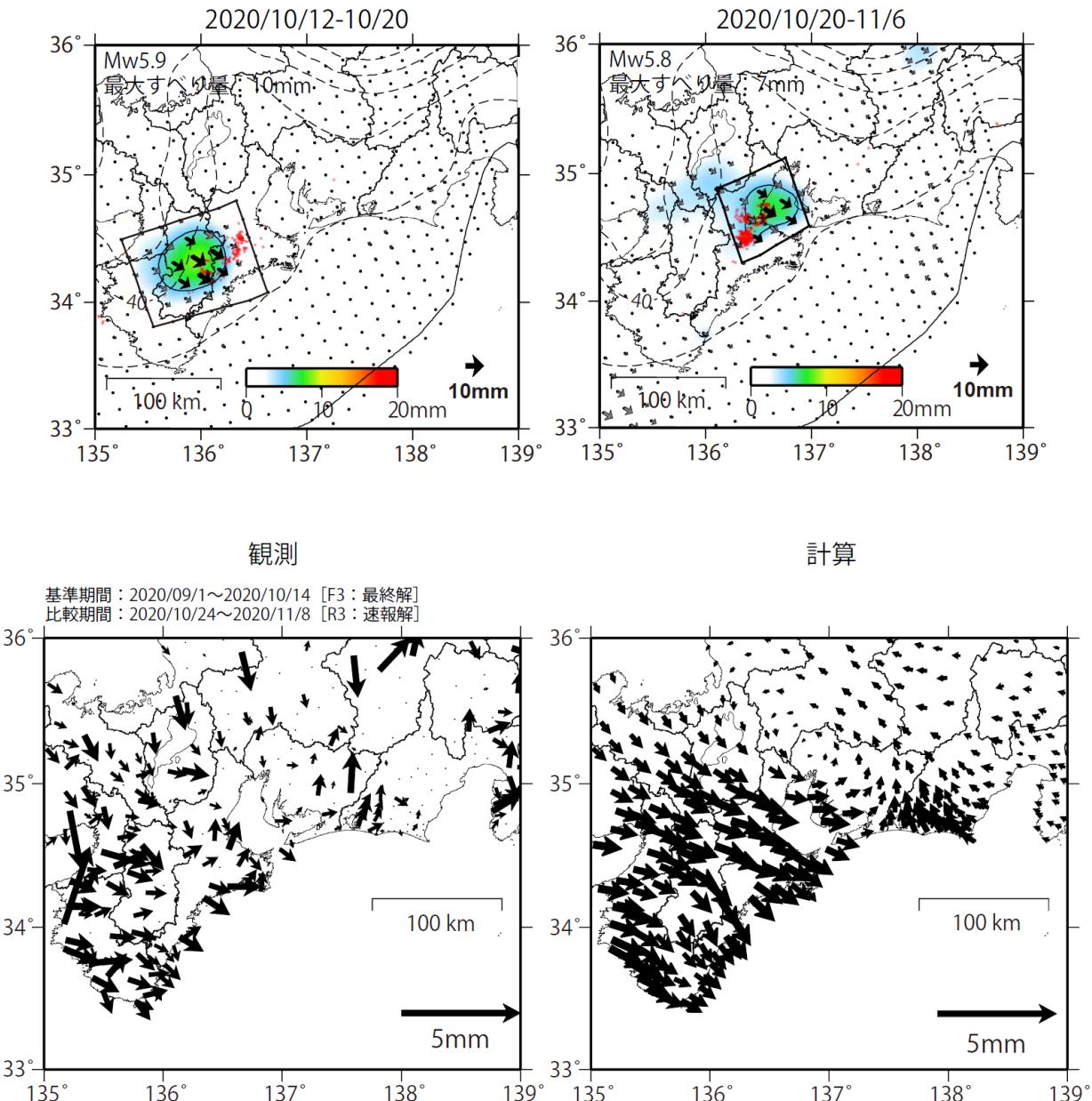
(b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。

1: 2020/07/06-08AM (Mw5.9), 2: 2020/06/30PM-07/03 (Mw6.1), 3: 2020/10/13PM-15AM (Mw5.7),
4: 2020/10/15PM-16AM (Mw5.6), A: 2020/11/01 (Mw5.6)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

(b3) 体積歪（地下水圧から換算）の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

GNSSデータから推定された
紀伊半島北部の深部低周波微動と同期したスロースリップ（暫定）



解析に使用した全観測点の座標時系列から、共通に含まれる
時間変化成分は取り除いている。
また、基準期間と比較期間の間のオフセットをRamp関数で
推定し、AICで有意でない成分及び西向き成分は除外している。
2期間の合算の変動を示している。

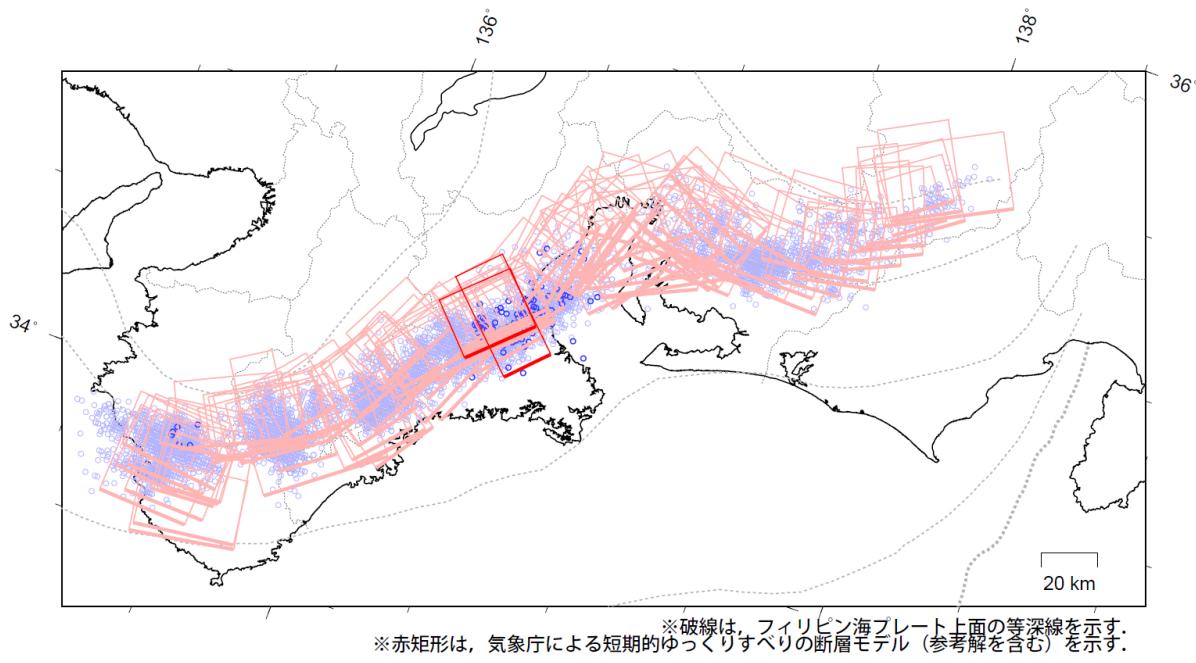
解析に使用した観測点の範囲：概ね北緯33.4～36°、東経135～139°
使用データ：F3解(2020/9/1 - 2020/10/17)+R3解(2020/10/18 - 2020/11/8)
トレンド期間：2017/1/1 - 2018/1/1（年周・半年周成分は2017/1/1 - 2020/11/8のデータで補正）
モーメント計算範囲：上段の図の黒枠内側
黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線（弘瀬・他、2007）
すべり方向：プレートの沈み込む方向と平行な方向に拘束
赤丸：低周波地震（気象庁一元化震源）
センター間隔：5mm
固定局：三隅

国土地理院

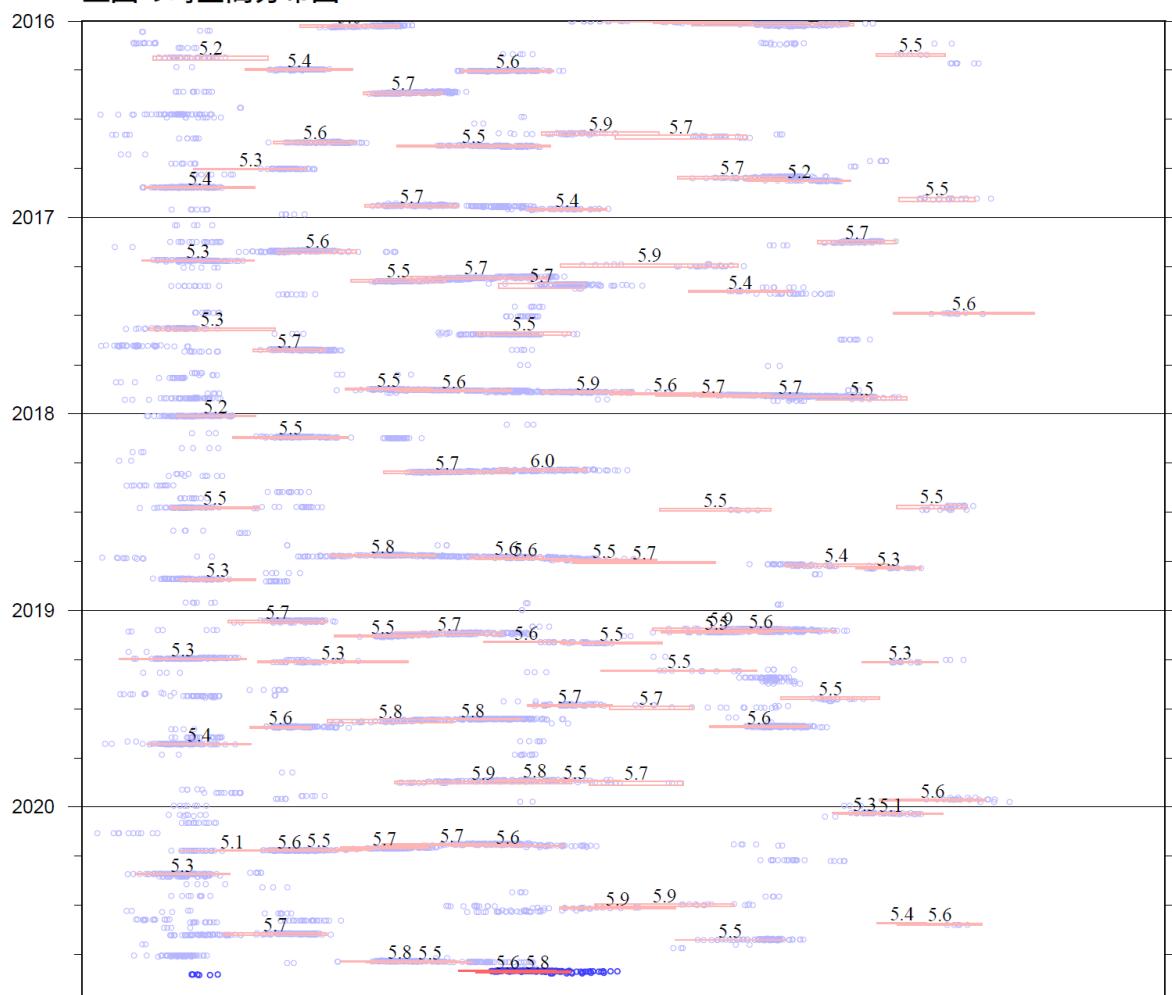
東海～紀伊半島 短期的ゆっくりすべりの活動状況

2016年1月1日～2020年11月30日

(2020年11月1日以降を濃く表示)



上図の時空間分布図



※短期的ゆっくりすべりの解析には、気象庁、産業技術総合研究所及び静岡県のデータを用いている。

※赤矩形の上に表示されている数字は解析された幅を示す。

※青丸はエンベロープ相関法（防災科学技術研究所、東京大学地震研究所との共同研究による成果）で得られた低周波微動の震央を示す。

気象庁作成

四国の深部低周波微動活動状況（2020年11月）

防災科研 **MOWLAS**
Monitoring of
Microseism and Volcano

- 11月20～25日頃に豊後水道から四国西部において、活発な微動活動。

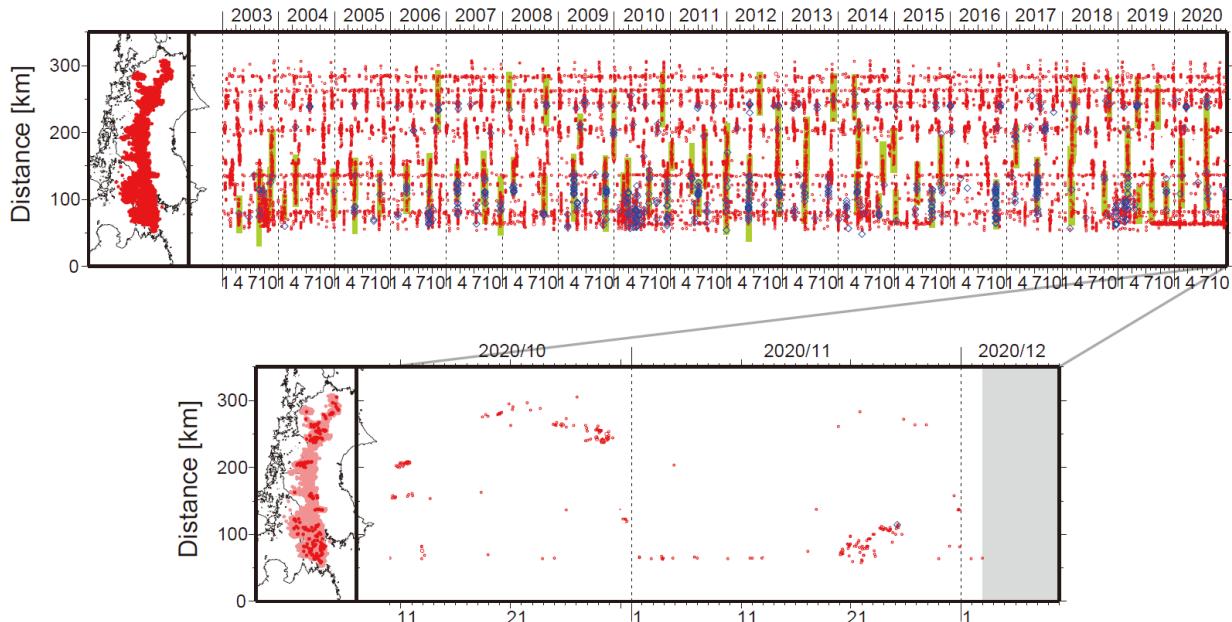


図1. 四国における2003年1月～2020年12月2日までの深部低周波微動の時空間分布（上図）。赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリット法 (Maeda and Obara, 2009) およびクラスタ処理 (Obara et al., 2010) によって1時間毎に自動処理された微動分布の重心である。青菱形は周期20秒に卓越する超低周波地震 (Ito et al., 2007) である。黄緑色太線は、これまでに検出された短期的スロースリップイベント (SSE) を示す。下図は2020年11月を中心とした期間の拡大図である。11月20～25日頃には豊後水道から愛媛県西部において活発な微動活動がみられた。この活動は、豊後水道付近で開始し、23日頃から東方向に活動域の移動がみられた。

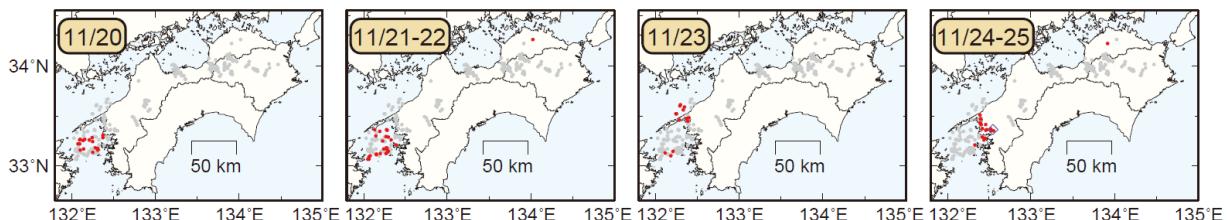


図2. 各期間に発生した微動分布（赤丸）、および深部超低周波地震（青菱形）。灰丸は図1の拡大図で示した期間の微動分布。

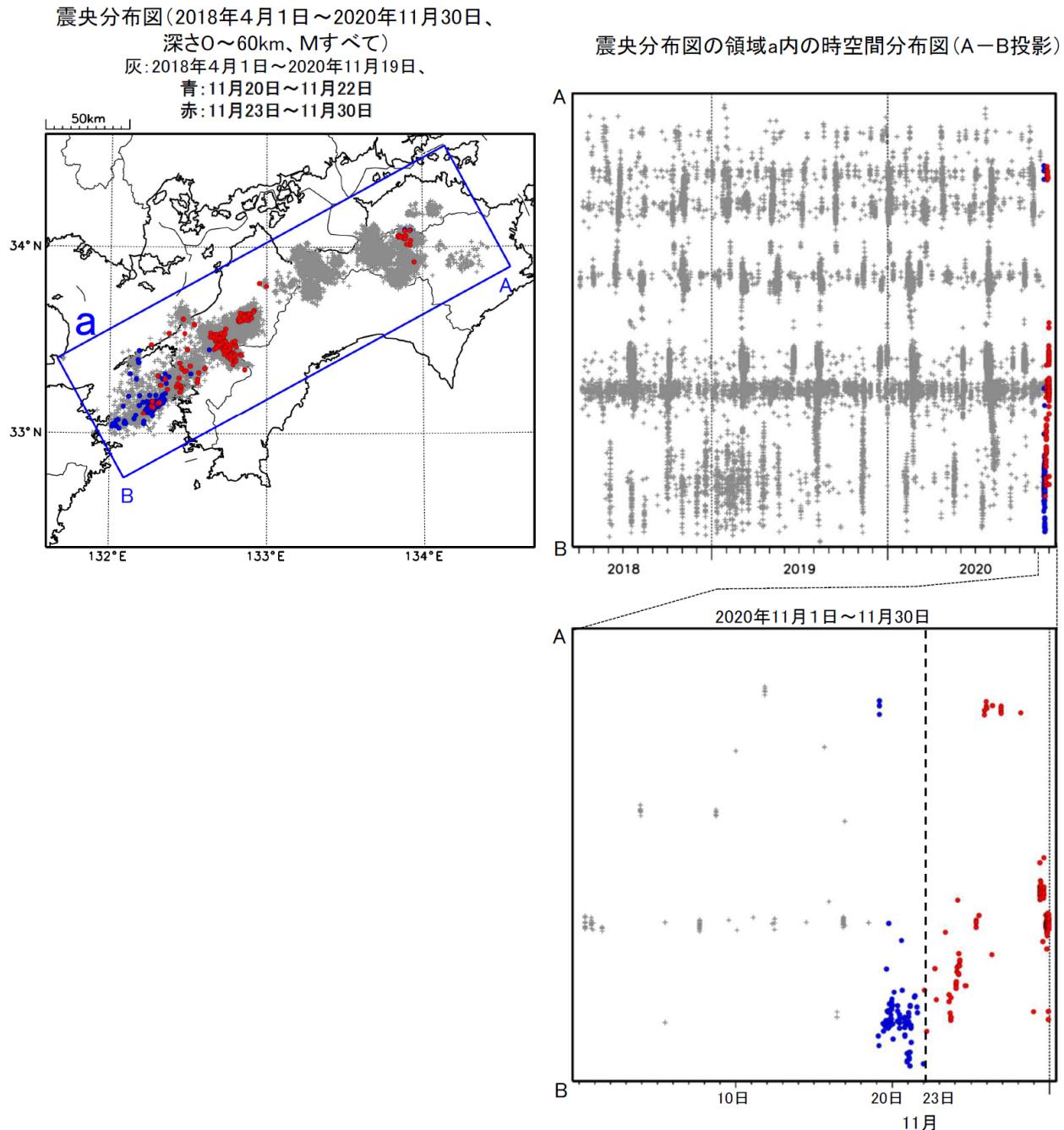
防災科学技術研究所資料

四国西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり

11月20日から27日にかけて四国西部で深部低周波地震（微動）を観測した。この活動は東方向への活動域の拡大がみられた。

深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測している。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震（微動）活動



気象庁作成

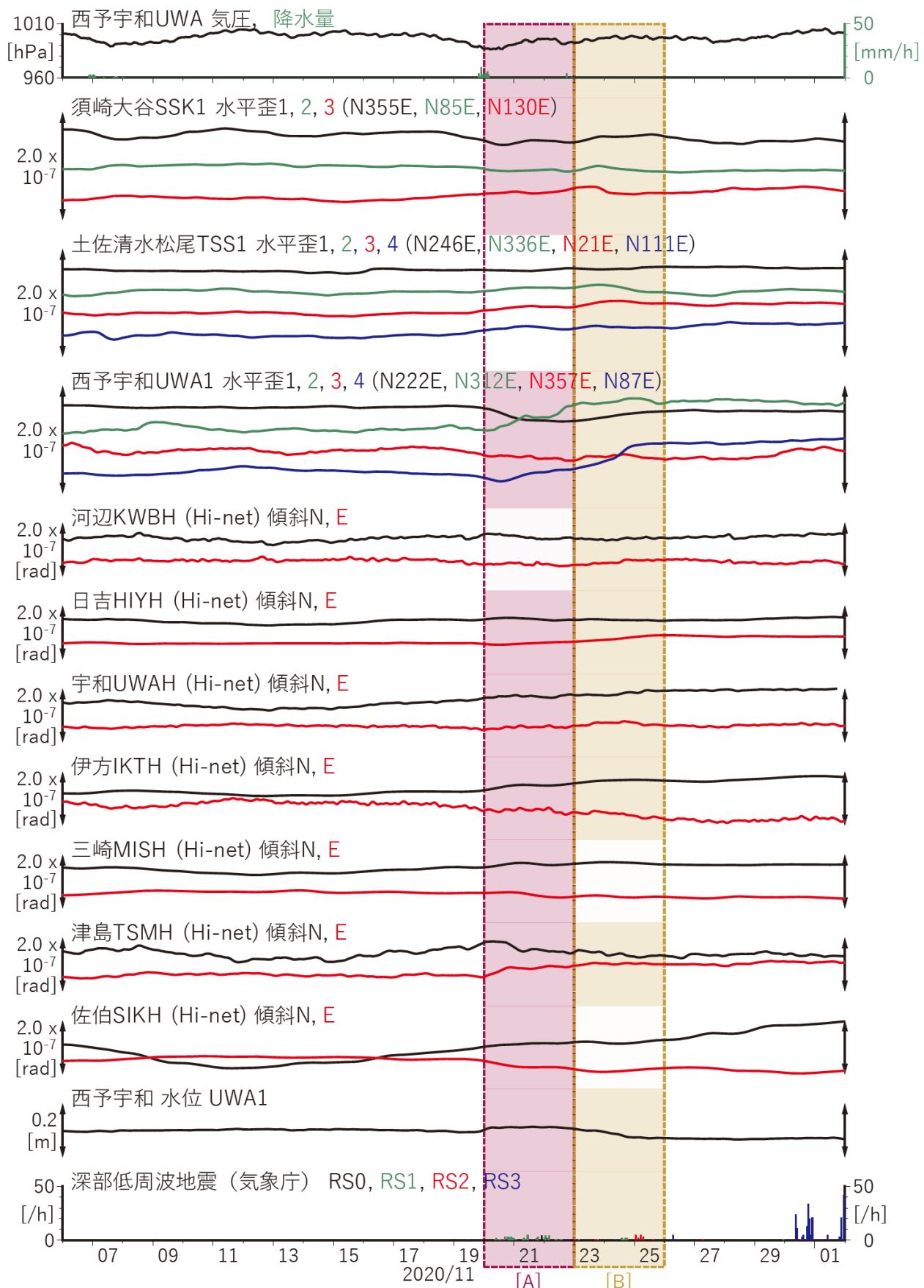
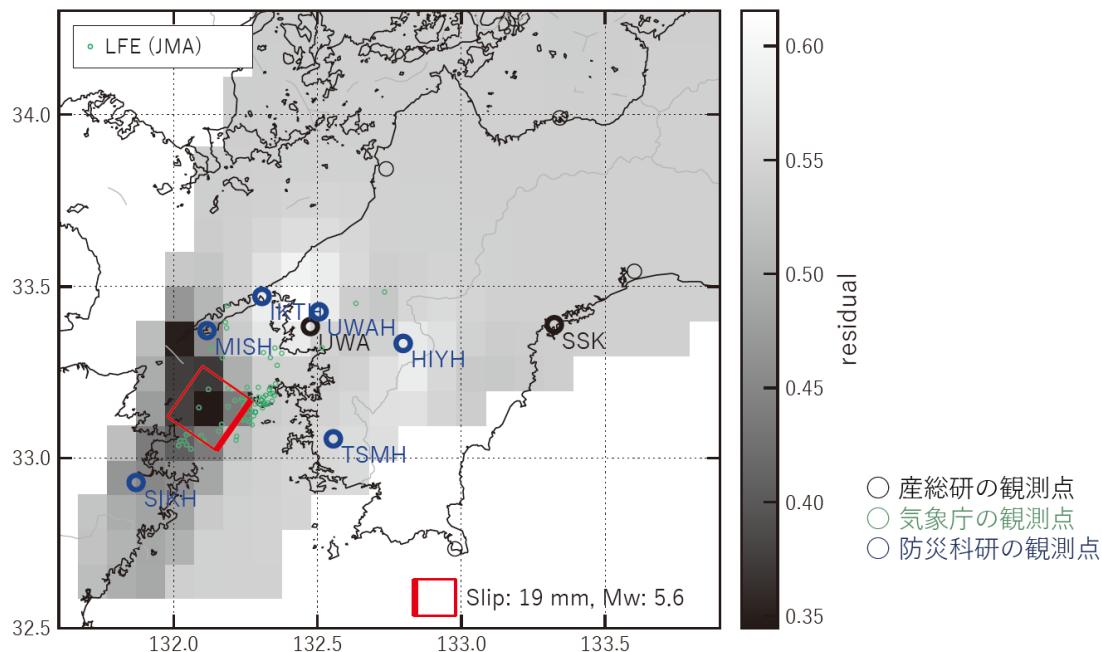


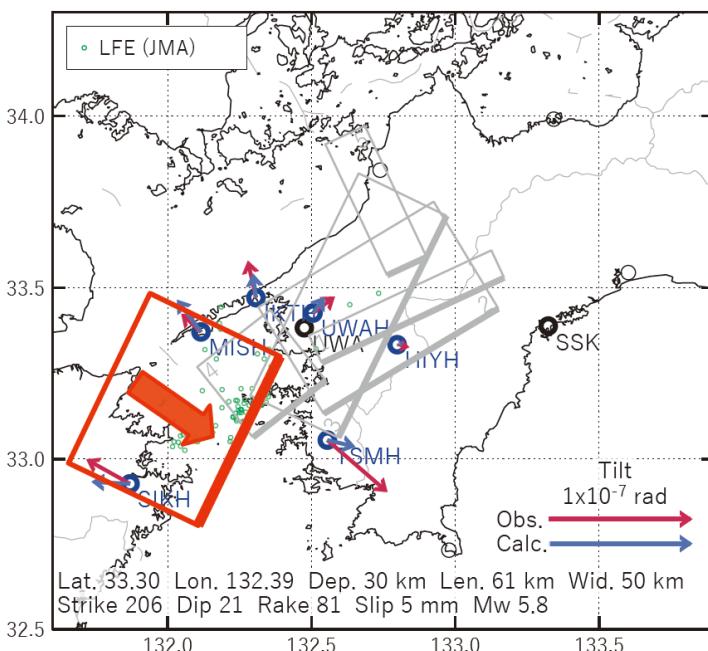
図6 四国西部における歪・傾斜・地下水観測結果（2020/11/06 00:00 - 2020/12/02 00:00 (JST)）

[A] 2020/11/20-22

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

(b3) 体積歪

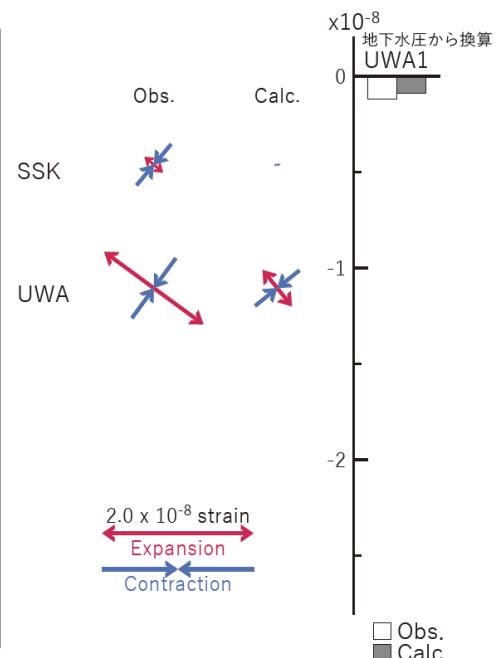


図7 2020/11/20-22の歪・傾斜・地下水変化（図6[A]）を説明する断層モデル。

- (a) プレート境界面に沿って 20×20 km の矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの、対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
- (b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。

1: 2020/07/29PM-31AM (Mw5.5), 2: 2020/07/31PM-08/03 (Mw5.8), 3: 2020/08/04-05 (Mw5.5),
4: 2020/08/06-08AM (Mw5.9), 5: 2020/08/09 (Mw5.1)

- (b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

- (b3) 体積歪（地下水圧から換算）の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[B] 2020/11/23-25

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布

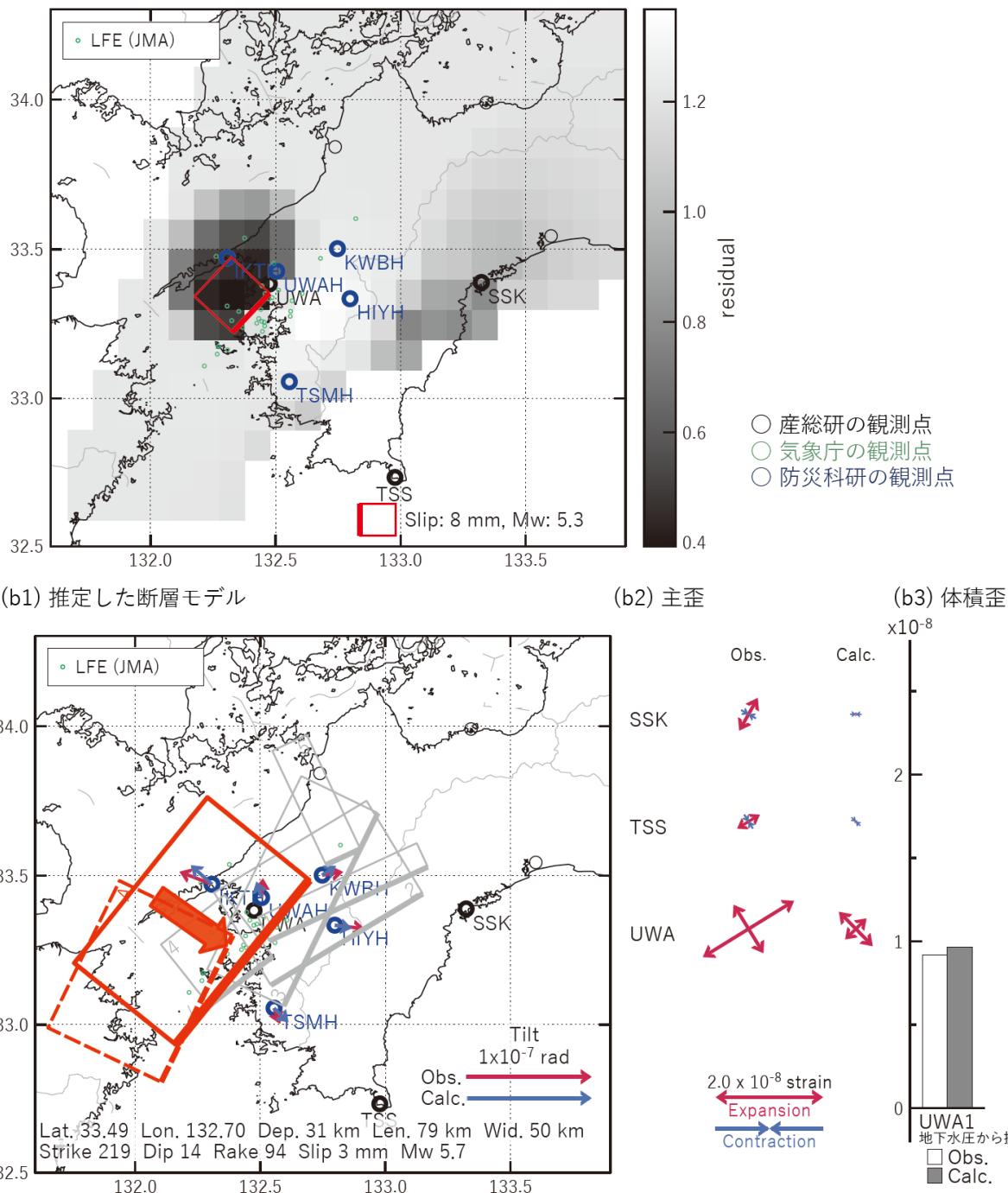


図8 2020/11/23-25の歪・傾斜・地下水変化（図6[B]）を説明する断層モデル。

- (a) プレート境界面に沿って $20 \times 20 \text{ km}$ の矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの、対応する残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。
- (b1) (a)の断層面付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面。

1: 2020/07/29PM-31AM (Mw5.5), 2: 2020/07/31PM-08/03 (Mw5.8), 3: 2020/08/04-05 (Mw5.5),
4: 2020/08/06-08AM (Mw5.9), 5: 2020/08/09 (Mw5.1), A: 2020/11/20-22 (Mw5.8)

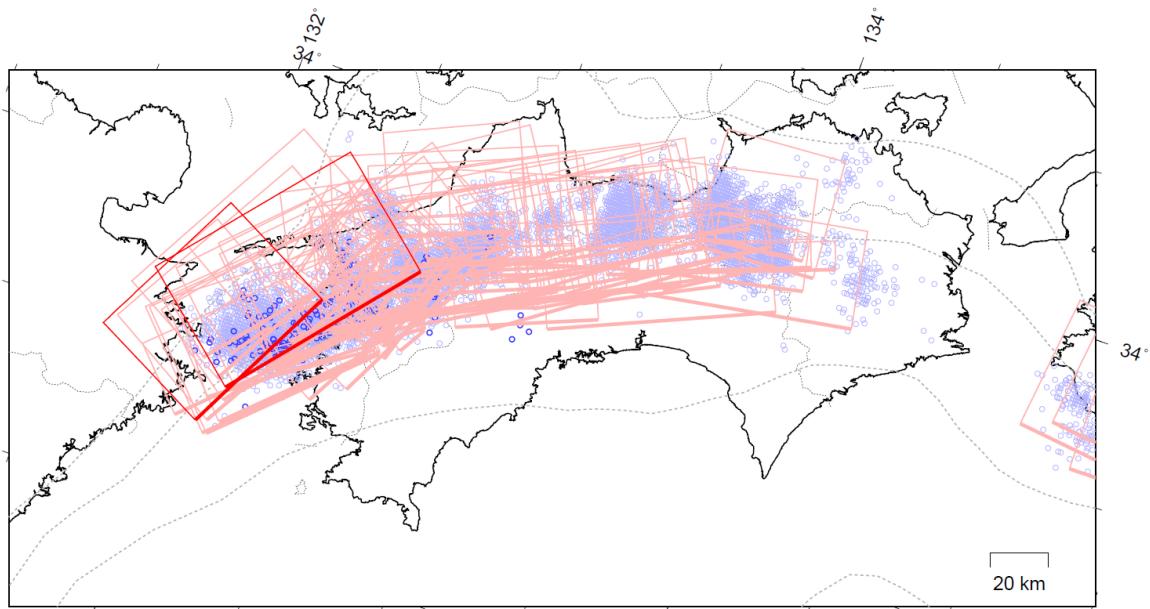
- (b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

- (b3) 体積歪（地下水圧から換算）の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

四国 短期的ゆっくりすべりの活動状況

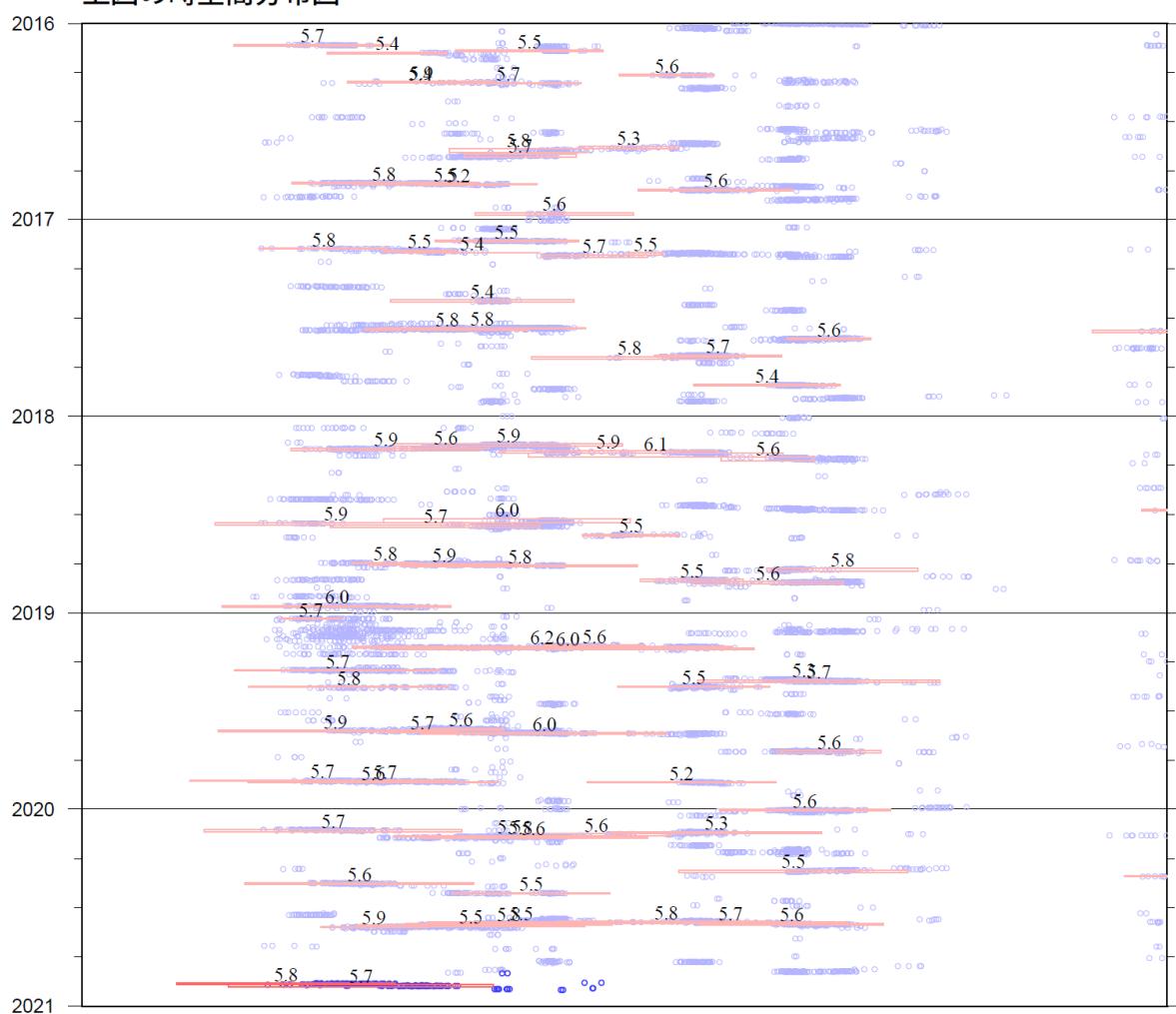
2016年1月1日～2020年12月3日

(2020年11月1日以降を濃く表示)



※赤矩形は、産業技術総合研究所による短期的ゆっくりすべりの断層モデルを示す。

上図の時空間分布図



※短期的ゆっくりすべりの解析には、産業技術総合研究所及び防災科学技術研究所のデータを用いている。

※赤矩形の上に表示されている数字は解析されたMWを示す。

※青丸はエンベロープ相関法（防災科学技術研究所、東京大学地震研究所との共同研究による成果）で得られた

低周波微動の震央を示す。

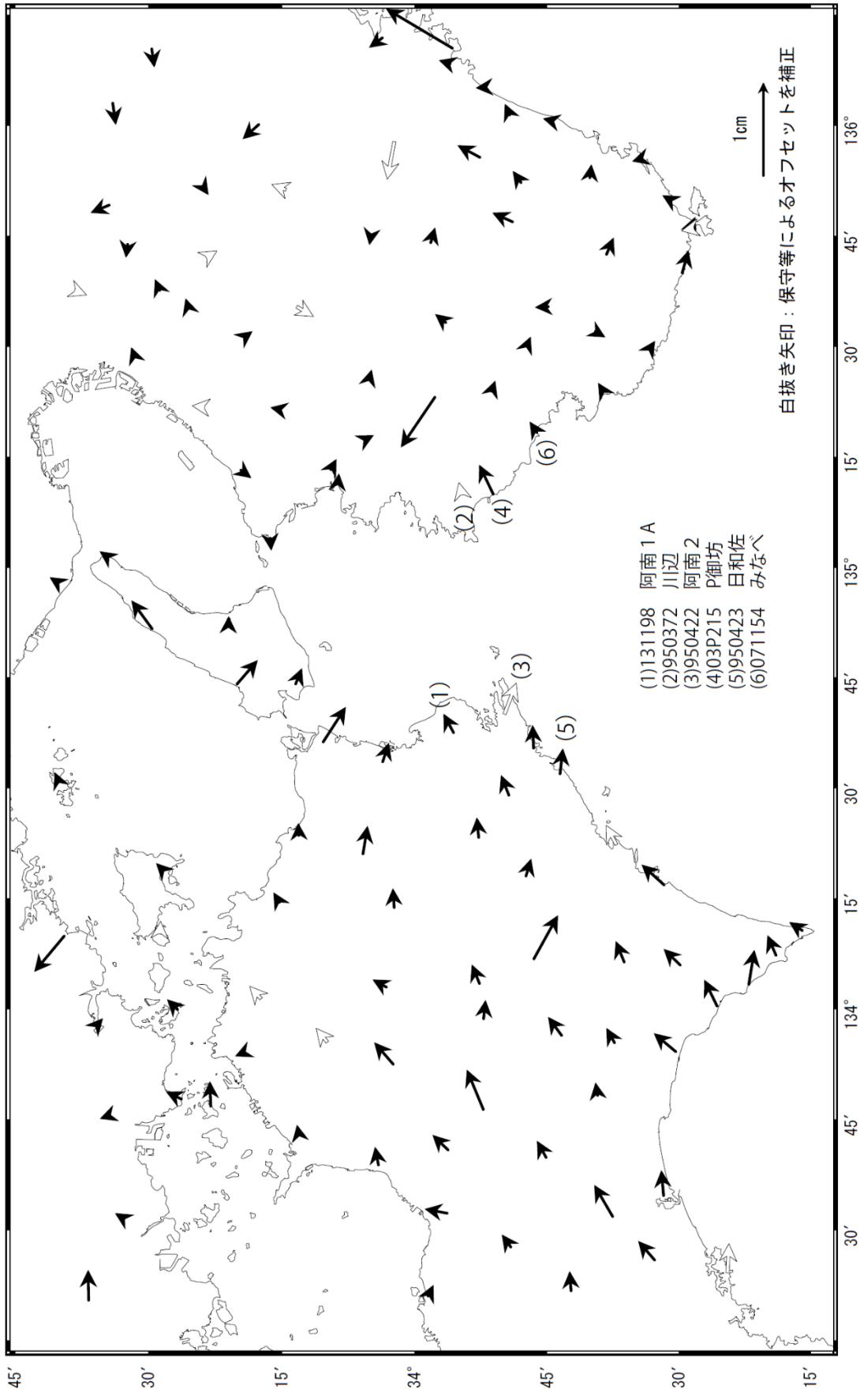
気象庁作成

(国土地理院によるGNSS解析)

紀伊半島西部・四国東部の非定常水平地殻変動(1次トレンド・年周期・半年周期除去後)

基準期間：2020/05/29～2020/06/04 [F3:最終解]
比較期間：2020/11/25～2020/12/01 [R3:速報解]

計算期間：2017/01/01～2017/12/31



固定局：網野 (960640)

国土地理院

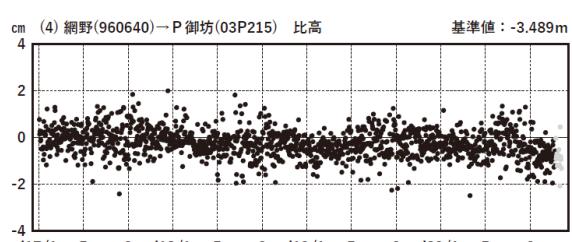
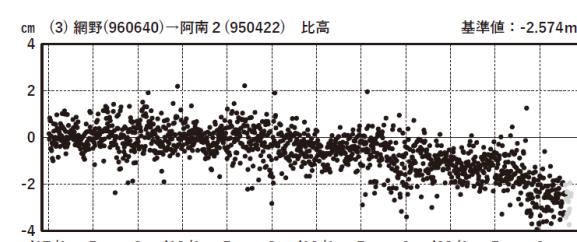
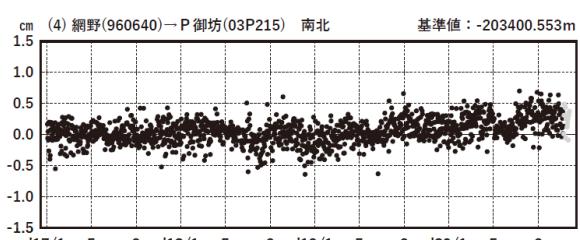
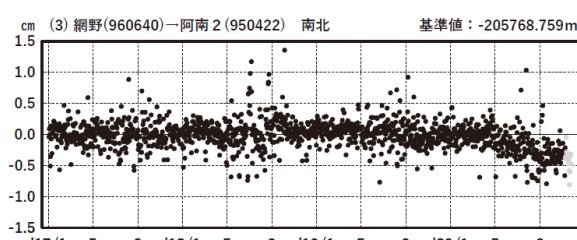
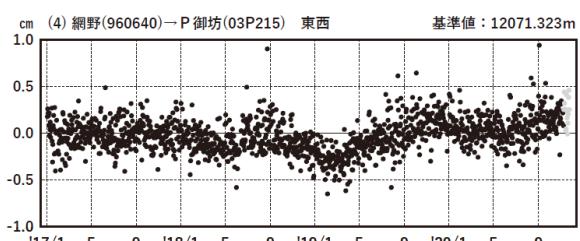
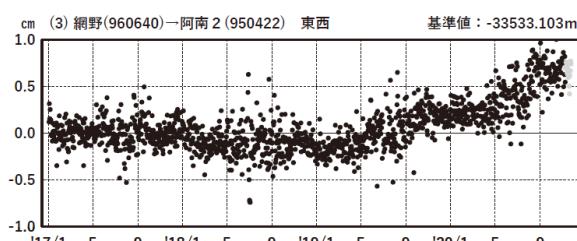
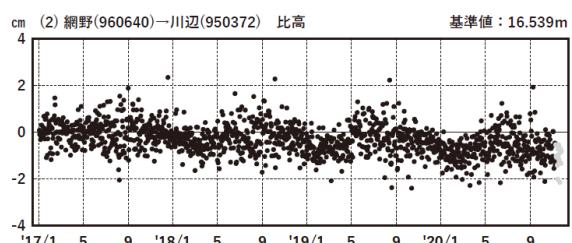
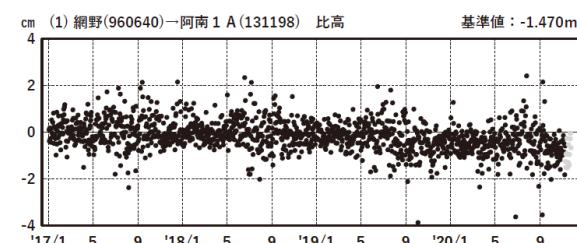
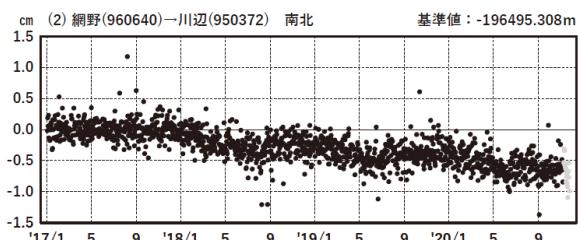
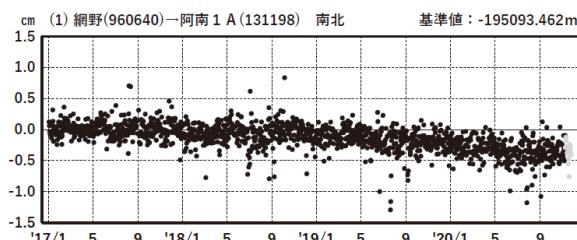
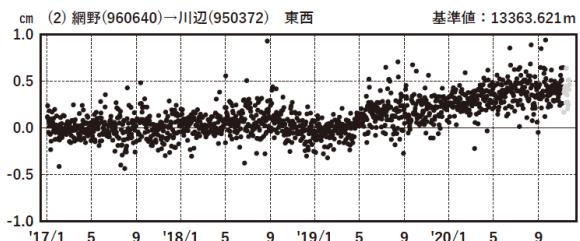
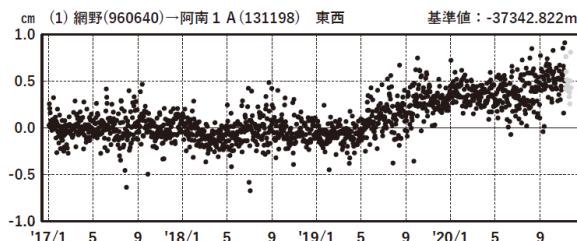
令和2年11月 地震・火山月報（防災編）

紀伊半島西部・四国東部 G N S S 連続観測時系列(1)

1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

期間: 2017/01/01~2020/11/24 JST

計算期間: 2017/01/01~2018/01/01



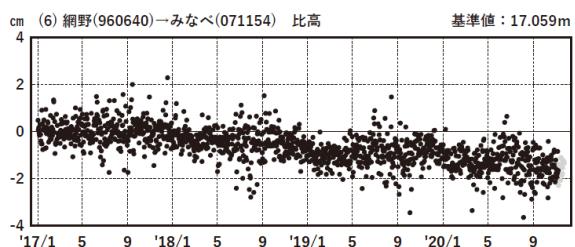
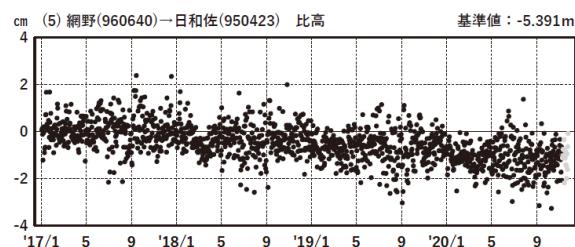
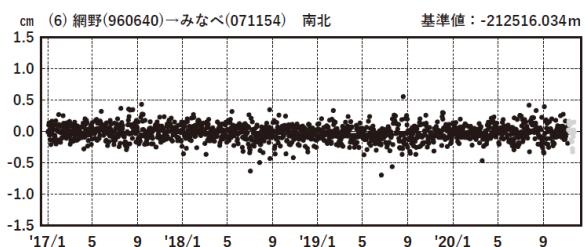
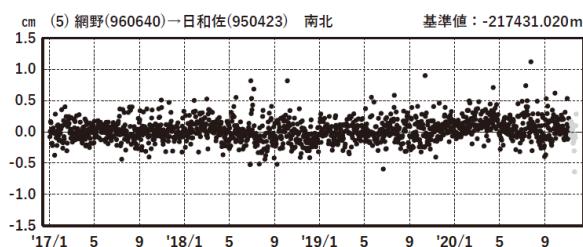
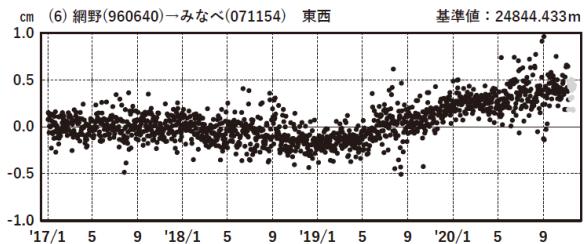
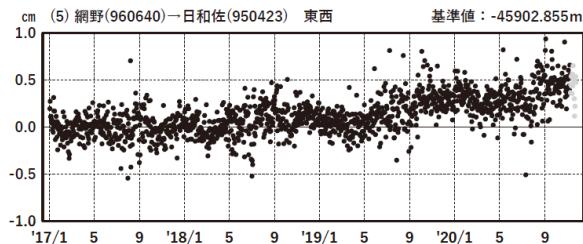
●---[F3:最終解] ●---[R3:速報解]

国土地理院

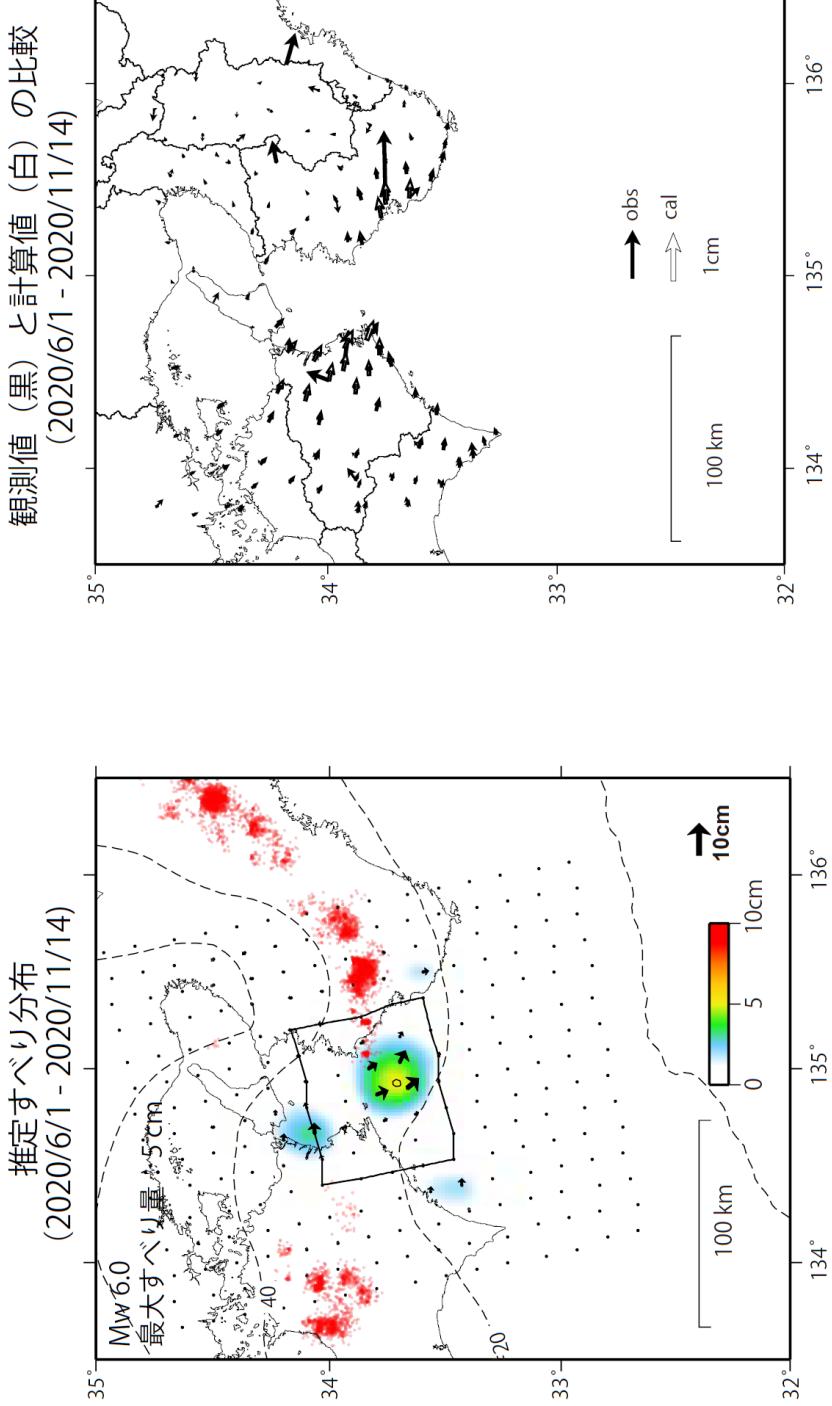
紀伊半島西部・四国東部 G N S S 連続観測時系列(2)
1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

期間: 2017/01/01~2020/11/24 JST

計算期間: 2017/01/01~2018/01/01



GNSSデータから推定された
紀伊水道の長期的ゆっくりすべり（暫定）



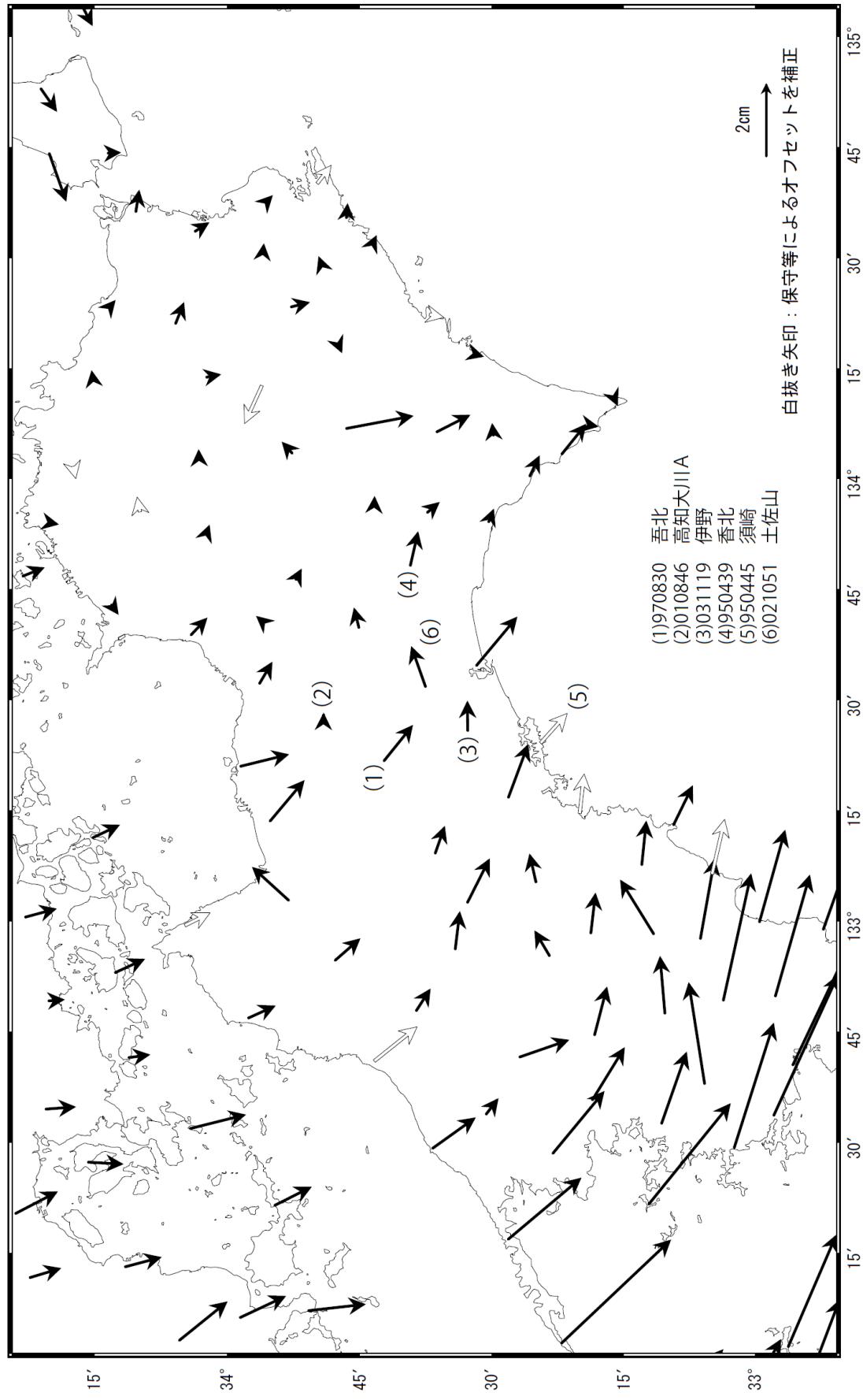
使用データ：F3解（2018/1/1 - 2020/11/3）+ R3解（2020/11/4 - 2020/11/14） ※電子基準点の保守等による変動は補正済み
トレンド期間：2017/1/1 - 2018/1/1（年周・半年周成分は2017/1/1 - 2020/11/14のデータで補正）
モーメント計算範囲：左図の黒枠内側
観測値：3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値
黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線（弘瀬・他、2007）
すべり方向：東向きから南向きの範囲に拘束
赤丸：低周波地震（気象庁一元化震源）（期間：2019/1/1 - 2019/12/31）
固定局：網野

(国土地理院によるGNSS解析)

四国中部の非定常水平地殻変動(1次トレンド・年周期・半年周期除去後)

基準期間：2017/12/29～2018/01/04 [F3:最終解]
比較期間：2020/11/17～2020/11/23 [R3:速報解]

計算期間：2017/01/01～2018/01/01



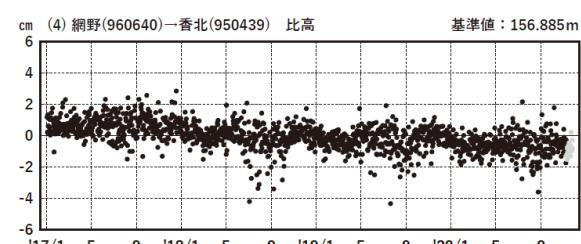
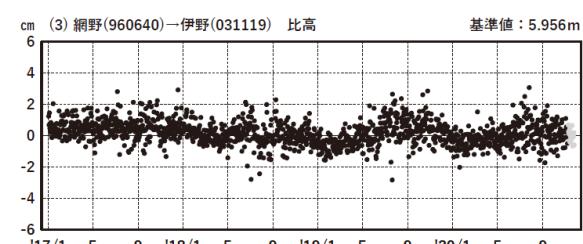
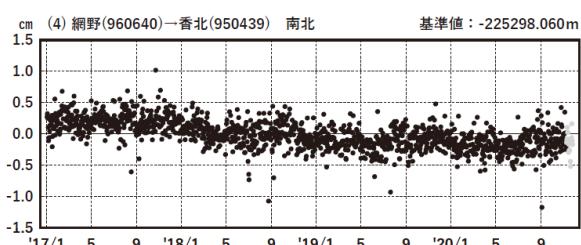
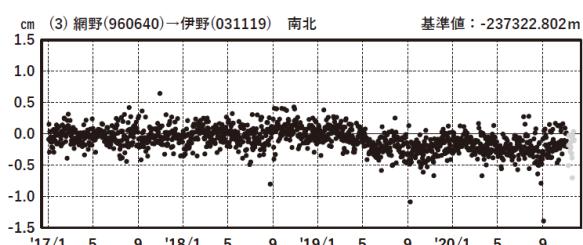
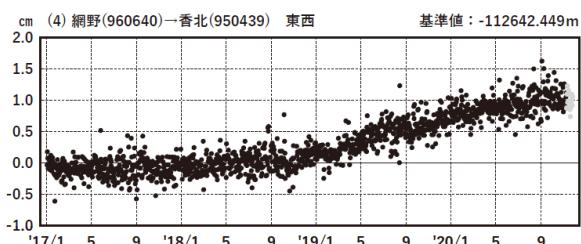
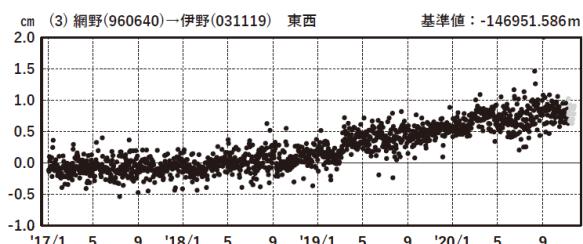
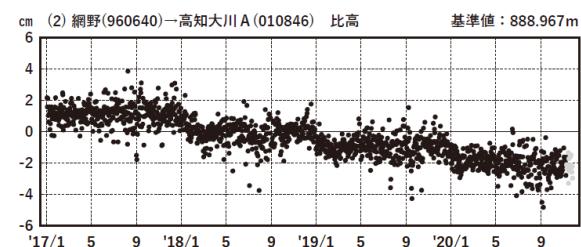
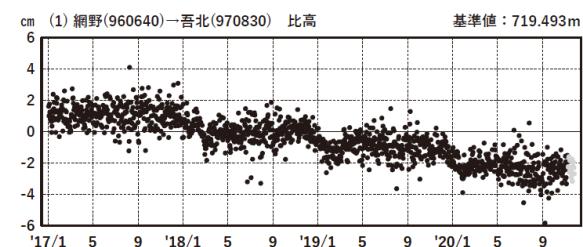
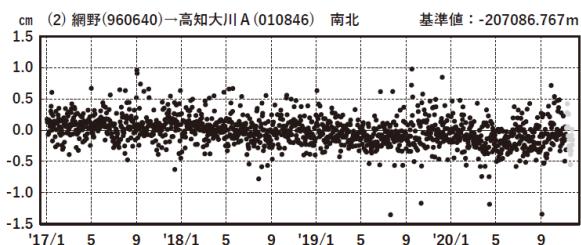
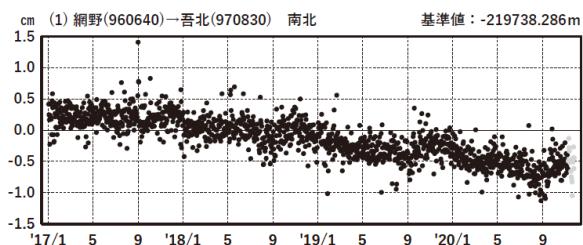
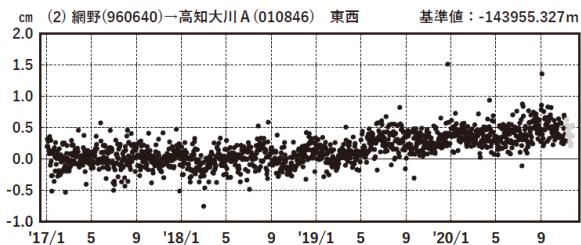
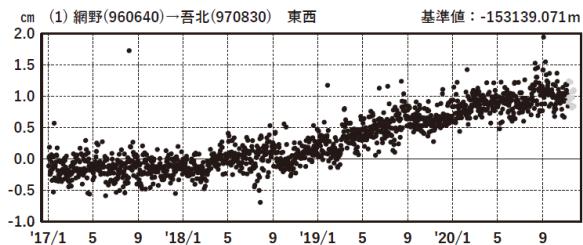
固定局：網野 (960640)

国土地理院

四国中部 G N S S 連続観測時系列(1)
1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

期間: 2017/01/01~2020/11/24 JST

計算期間: 2017/01/01~2018/01/01



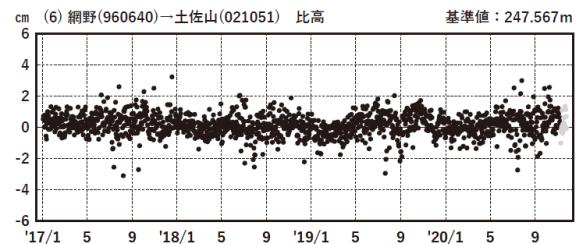
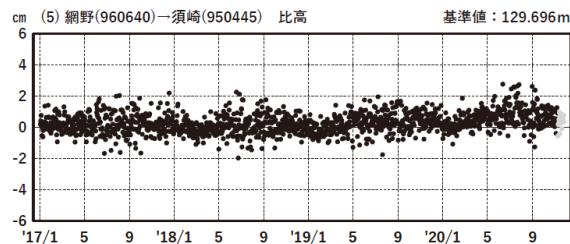
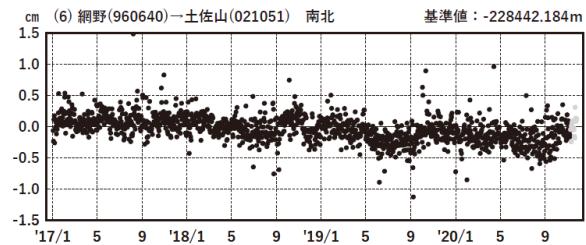
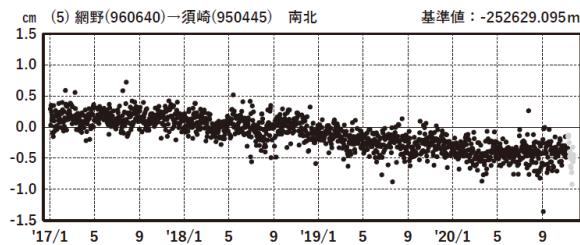
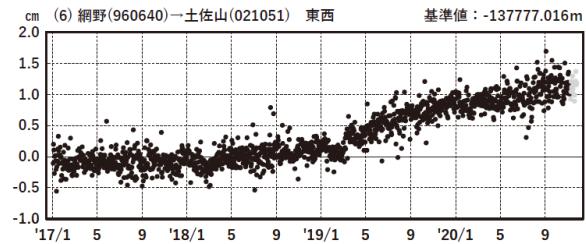
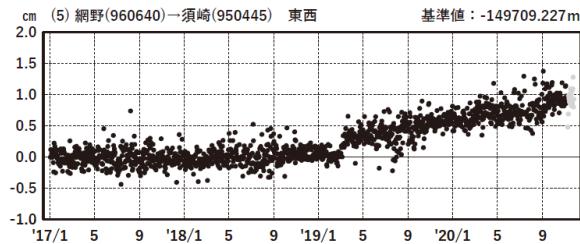
●---[F3:最終解] ●---[R3:速報解]

国土地理院

四国中部 G N S S 連続観測時系列(2)
1次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

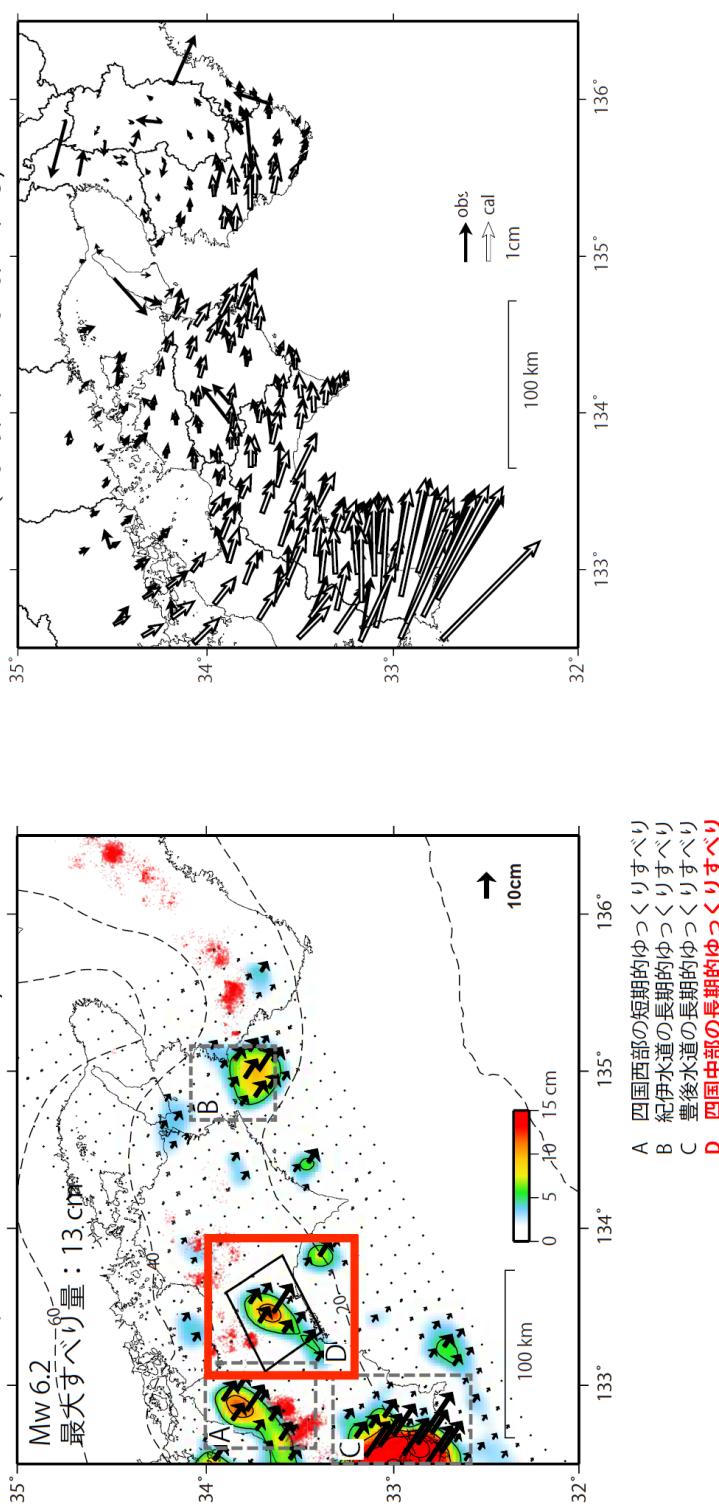
期間: 2017/01/01～2020/11/24 JST

計算期間: 2017/01/01～2018/01/01



GNSSデータから推定された
四国中部の長期的ゆっくりすべり（暫定）

推定すべり分布
(2019/1/1 - 2020/11/13)



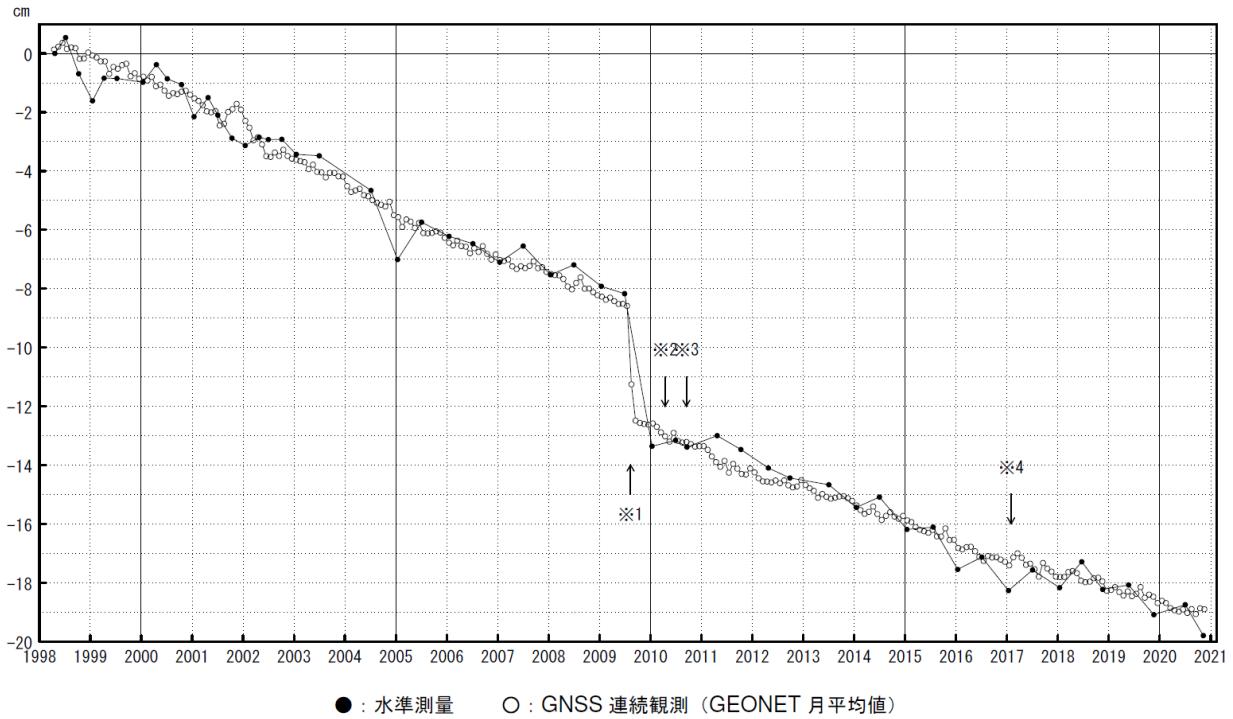
使用データ：F3解(2019/1/1 - 2020/11/3) + R3解(2020/11/4 - 2020/11/13)
トレンド期間：2017/1/1 - 2018/1/1（年周・半年周成分は2017/1/1 - 2020/11/13のデータで補正）
モーメント計算範囲：左図の黒枠内側

観測値：3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値
黒破線：フィリピン海プレート上面の等深線（弘瀬・他、2007）
すべり方向：プレートの沈み込み方向と平行な方向に拘束
赤丸：低周波地震（気象庁－元化震源）（期間：2019/1/1 - 2019/12/31）
固定局：網野

御前崎 電子基準点の上下変動 水準測量とGNSS連続観測

掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。

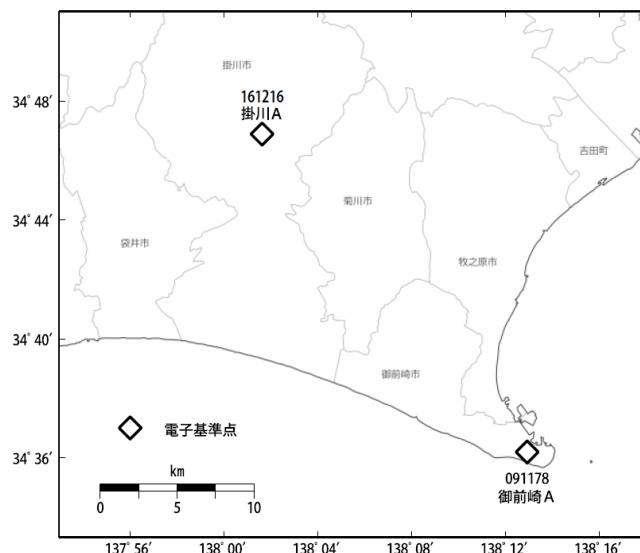
掛川A(161216) - 御前崎A(091178)



● : 水準測量 ○ : GNSS連続観測 (GEONET月平均値)

- 最新のプロット点は 11/01～11/07 の平均。

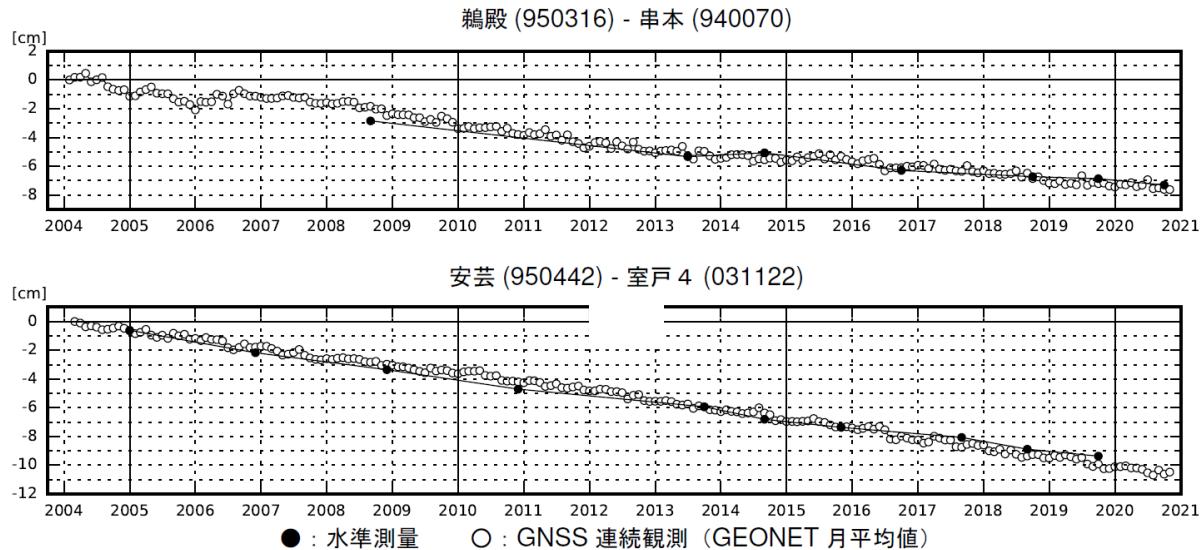
- ※1 電子基準点「御前崎」は2009年8月11日の駿河湾の地震(M6.5)に伴い、地表付近の局所的な変動の影響を受けた。
 ※2 2010年4月以降は、電子基準点「御前崎」をより地盤の安定している場所に移転し、電子基準点「御前崎A」とした。上記グラフには電子基準点「御前崎」と電子基準点「御前崎A」のデータを接続して表示している。
 ※3 水準測量の結果は移転後初めて変動量が計算できる2010年9月から表示している。
 ※4 2017年1月30日以降は、電子基準点「掛川」は移転し、電子基準点「掛川A」とした。上記グラフは電子基準点「掛川」と電子基準点「掛川A」のデータを接続して表示している。



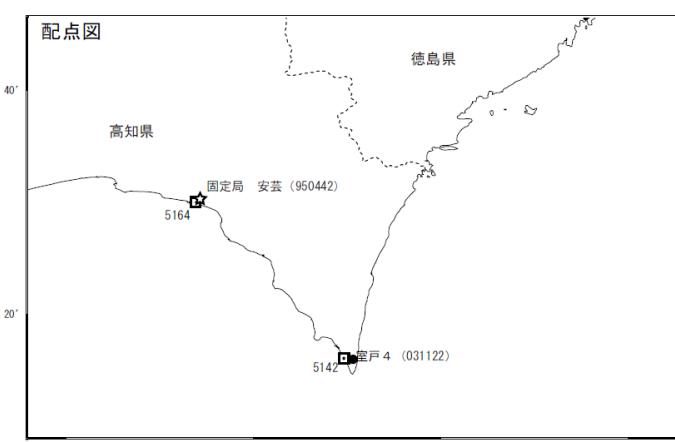
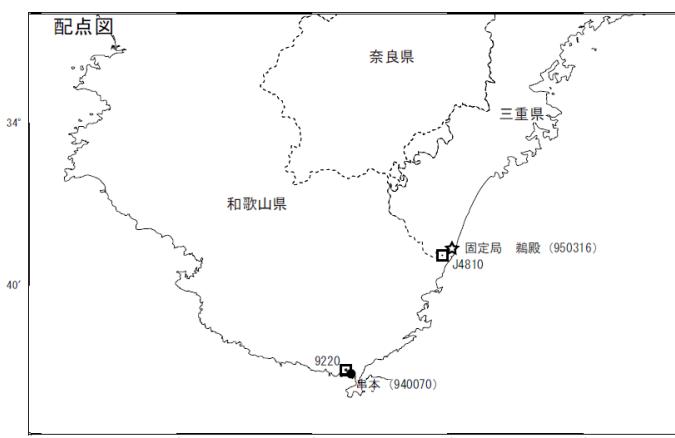
国土地理院

紀伊半島及び室戸岬周辺 電子基準点の上下変動

潮岬周辺及び室戸岬周辺の長期的な沈降傾向が続いている。

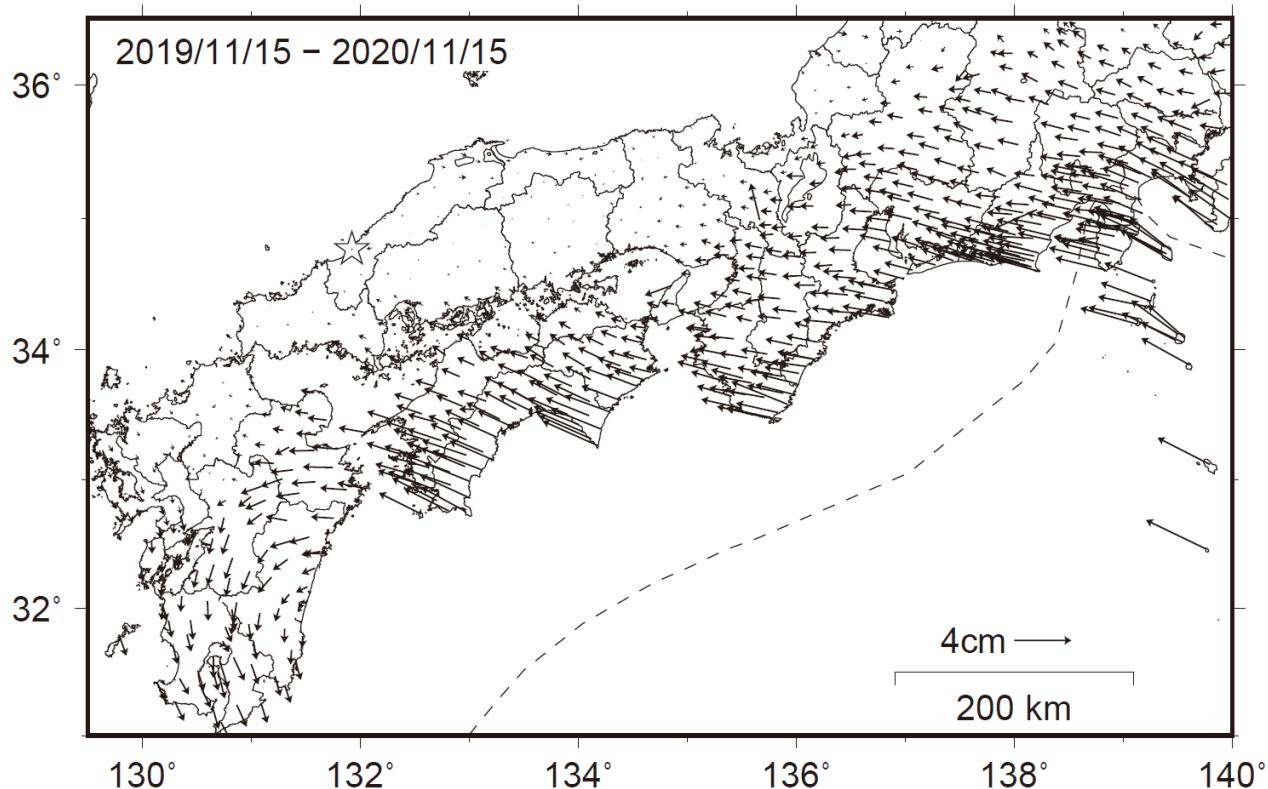


- 最新のプロット点は 11/1~11/7 の平均。
- 水準測量による結果については、最寄りの一等水準点の結果を表示している。

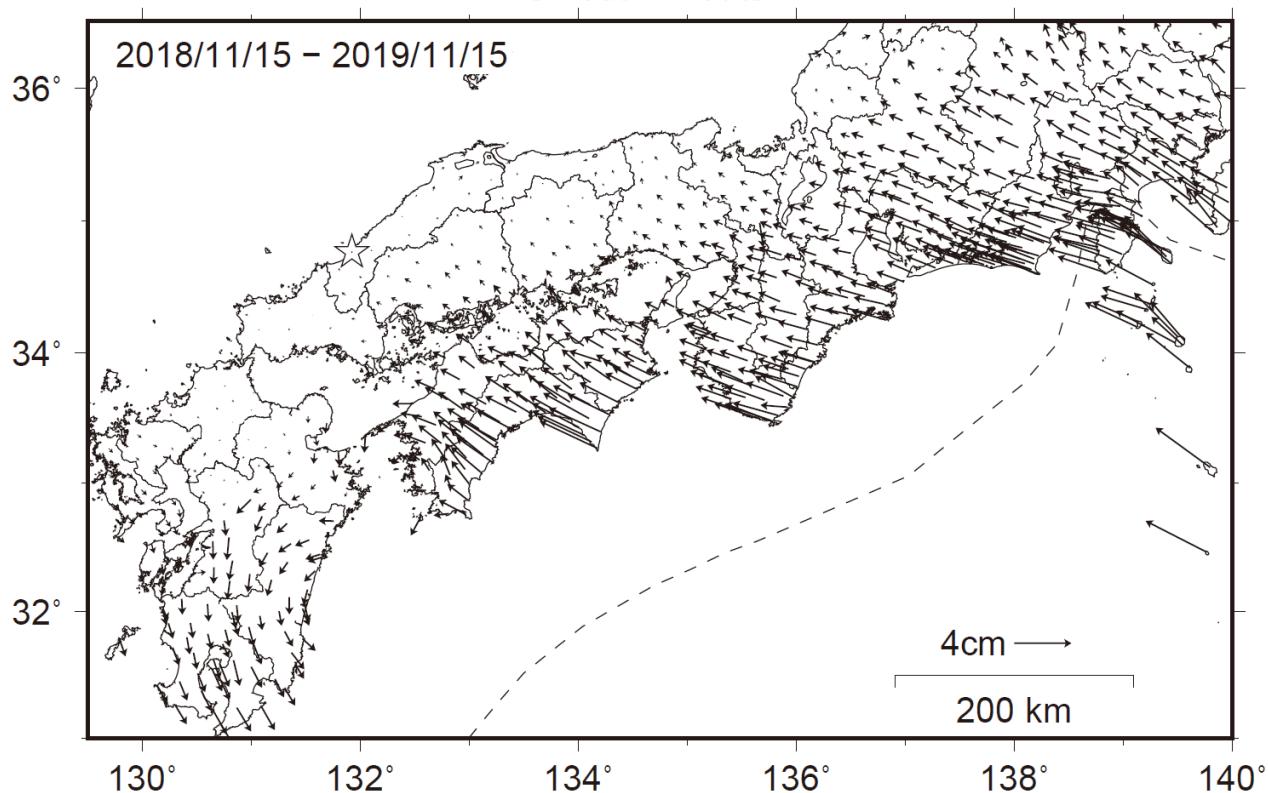


南海トラフ沿いの水平地殻変動【固定局：三隅】

【最近1年間】



【1年前の1年間】



・各日付 ± 6日の計 13日間の変動量の中央値をとり、その差から1年間の変動量を表示している。

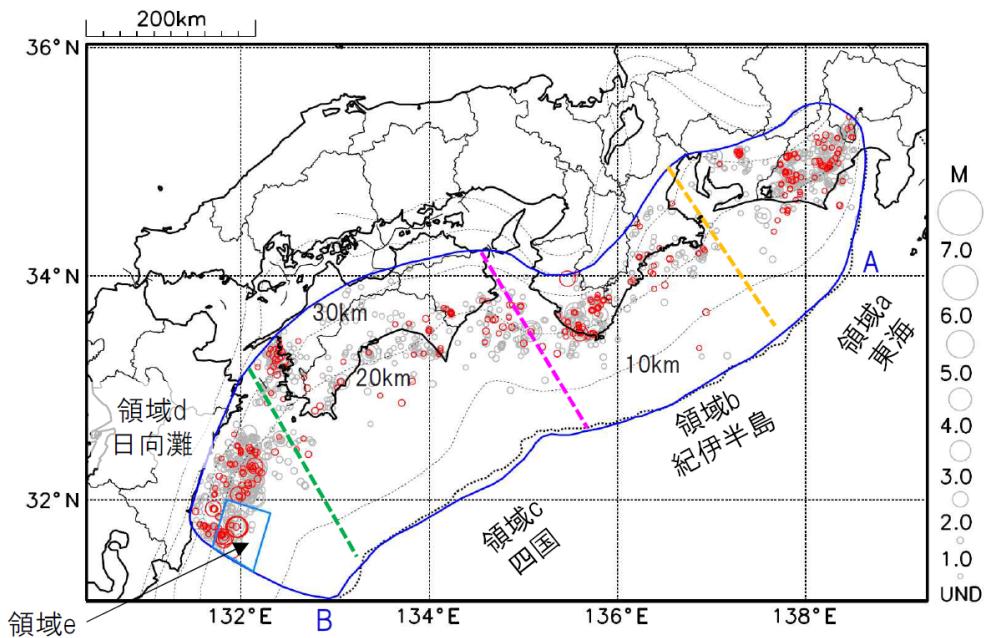
プレート境界とその周辺の地震活動

フィリピン海プレート上面の深さから±6km未満の地震を表示している。

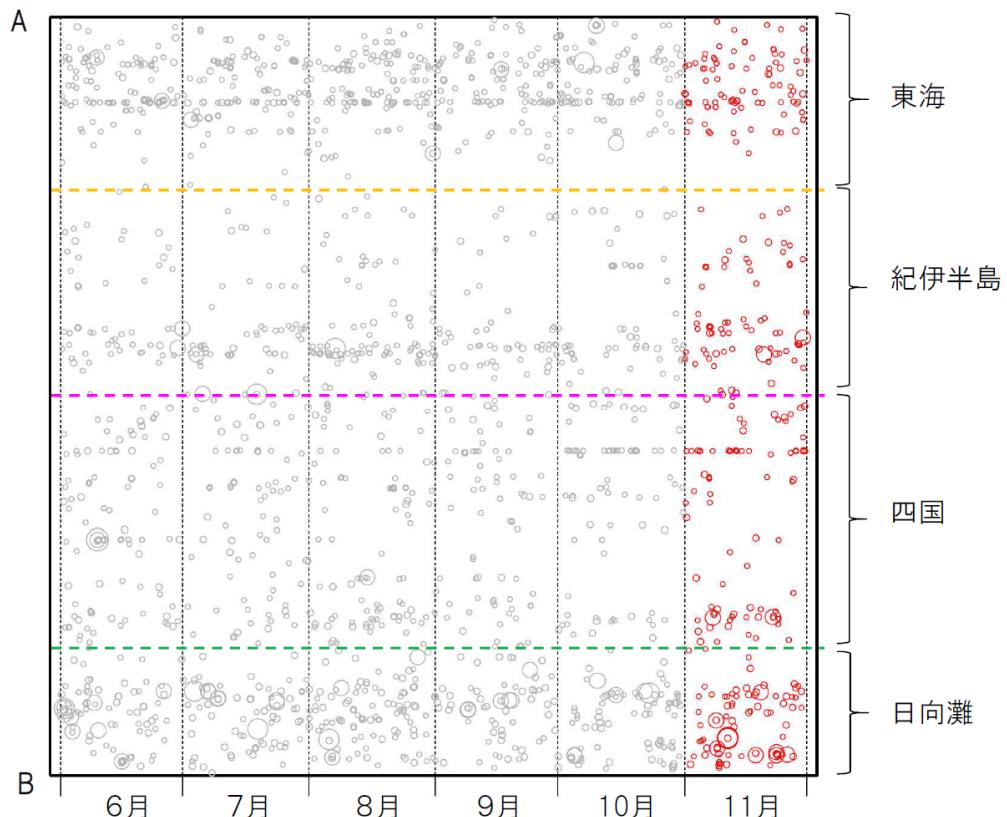
日向灘の領域e内のみ、深さ20km～30kmの地震を追加している。

震央分布図

(2020年6月1日～2020年11月30日、M全て、2020年11月の地震を赤く表示)



南海トラフ巨大地震の想定震源域内の時空間分布図(A-B投影)



・フィリピン海プレート上面の深さは、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。

・今期間の地震のうち、M3.2以上の地震で想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震に吹き出しを付している。吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差(+は浅い、-は深い)を示す。

・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

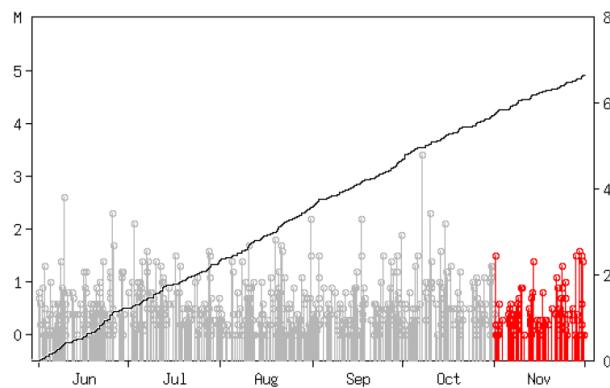
気象庁作成

プレート境界とその周辺の地震活動

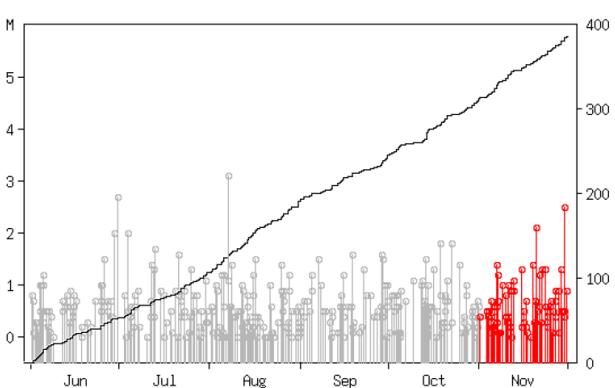
フィリピン海プレート上面の深さから±6km未満の地震を表示している。

震央分布図の各領域内のMT図・回数積算図

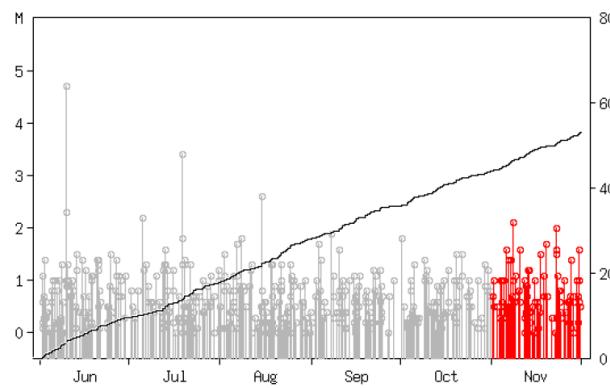
領域a内(東海)



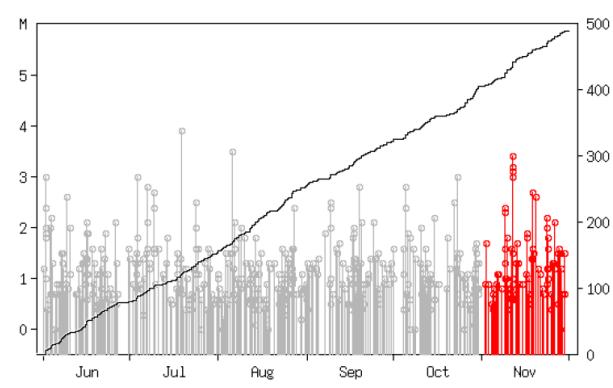
領域b内(紀伊半島)



領域c内(四国)



領域d内(日向灘)



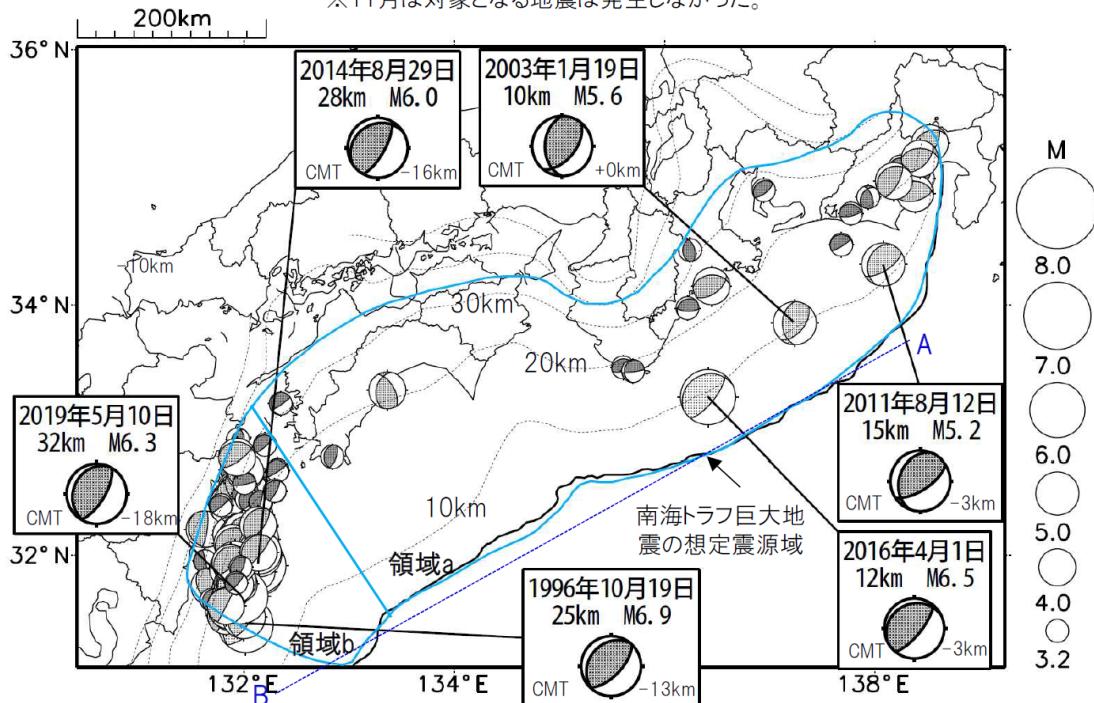
※M全ての地震を表示していることから、検知能力未満の地震も表示しているため、回数積算図は参考として表記している。

気象庁作成

想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震

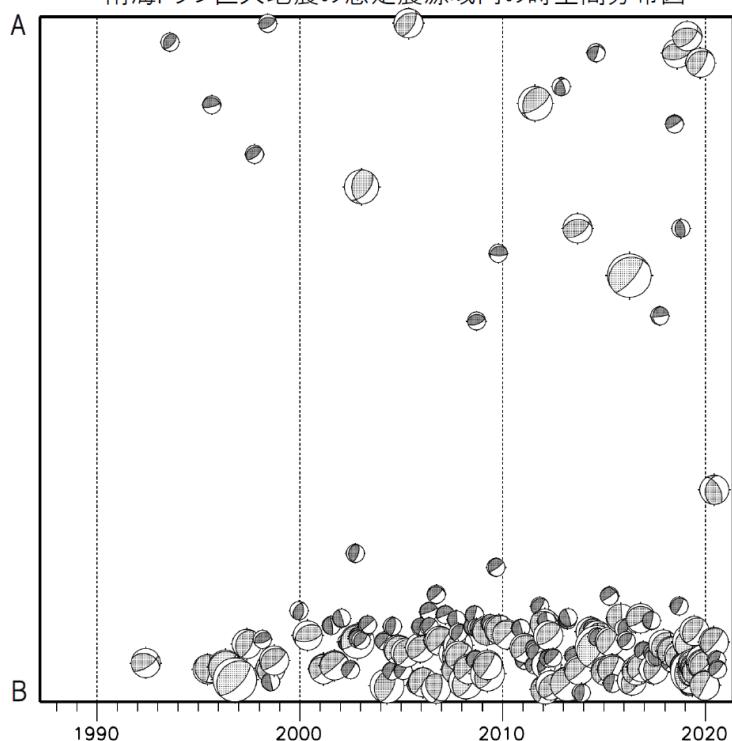
震央分布図(1987年9月1日～2020年11月30日、M≥3.2、2020年11月の地震を赤く表示)

※11月は対象となる地震は発生しなかった。



- ・フィリピン海プレート上面の深さは、Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。
- ・今期間に発生した地震(赤)、日向灘のM6.0以上、その他の地域のM5.0以上の地震に吹き出しを付けている。
- ・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。
- ・吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差を示す。+は浅い、-は深いことを示す。
- ・吹き出しに「CMT」と表記した地震は、発震機構解と深さはCMT解による。Mは気象庁マグニチュードを表記している。
- ・発震機構解の解析基準は、解析当時の観測網等に応じて変遷しているため一定ではない。

南海トラフ巨大地震の想定震源域内の時空間分布図



プレート境界型の地震と類似の型の発震機構解を持つ地震は以下の条件で抽出した。

【抽出条件】

- ・M3.2以上の地震
 - ・領域a内(南海トラフの想定最大規模の想定震源域内)で発生した地震
 - ・発震機構解が以下の条件を全て満たしたものを抽出した。
 - P軸の傾斜角が45度以下
 - P軸の方位角が65度以上180度以下(※)
 - T軸の傾斜角が45度以上
 - N軸の傾斜角が30度以下
- ※以外の条件は、東海地震と類似の型を抽出する条件と同様
- ・発震機構解は、CMT解と初動解の両方で検索をした。
 - ・同一の地震で、CMT解と初動解の両方がある場合はCMT解を選択している。
 - ・東海地方から四国地方(領域a)は、フィリピン海プレート上面の深さから±10km未満の地震のみ抽出した。日向灘(領域b)は、+10km～-20km未満の震源を抽出した。CMT解はセントロイドの深さを使用した。

気象庁作成

南海トラフ巨大地震の想定震源域とその周辺の地震活動指数

2020年11月30日

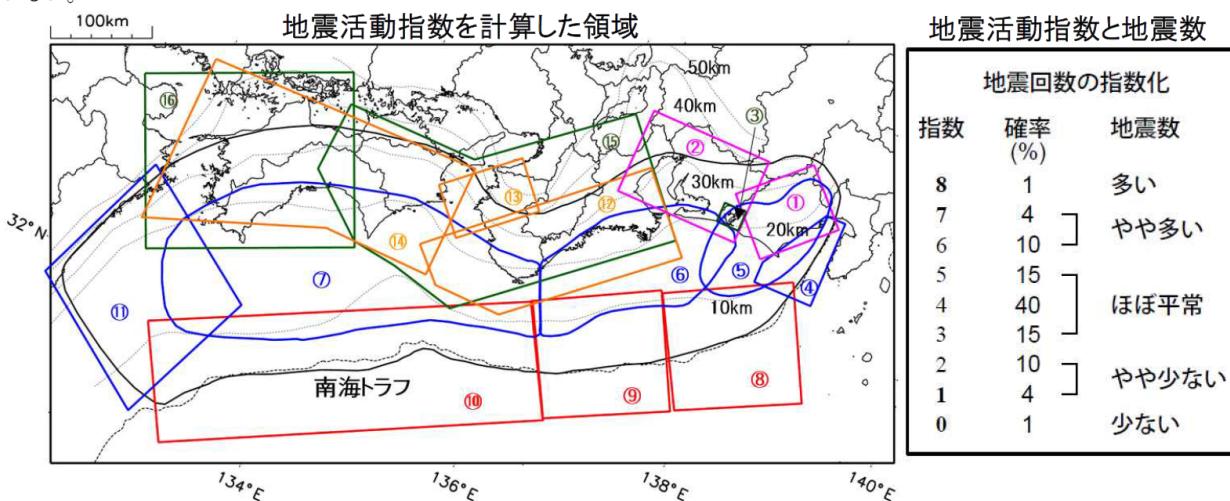
領域		①静岡県 中西部		②愛知県		③浜名湖 周辺	④駿河 湾	⑤東海	⑥東南 海	⑦ 南海
		地	ブ	地	ブ	ブ	全	全	全	全
地震活動指数		4	3	2	2	7	4	4	3	1
平均回数		16.5	18.5	26.5	13.7	13.4	13.2	18.3	19.6	21.3
Mしきい値		1.1		1.1		1.1	1.4	1.5	2.0	2.0
クラスタ 除去	距離	3km		3km		3km	10km	10km	10km	10km
日数		7日		7日		7日	10日	10日	10日	10日
対象期間		60日	90日	60日	30日	360日	180日	90日	360日	90日
深さ		0~ 30km	0~ 60km	0~ 30km	0~ 60km	0~ 60km	0~ 60km	0~ 60km	0~ 100km	0~ 100km

領域		南海トラフ沿い		⑪日向 灘	⑫紀伊 半島	⑬和歌 山	⑭四国	⑮紀伊半 島	⑯四国
		⑧東側	⑩西側						
地震活動指数		全	全	全	地	地	地	ブ	ブ
平均回数		6	2	4	3	2	5	3	2
Mしきい値		12.2	14.8	20.6	22.8	41.8	30.5	27.7	28.1
クラスタ 除去	距離	10km	10km	10km	3km	3km	3km	3km	3km
日数		10日	10日	10日	7日	7日	7日	7日	7日
対象期間		720日	360日	60日	120日	60日	90日	30日	30日
深さ		0~ 100km	0~ 100km	0~ 100km	0~ 20km	0~ 20km	0~ 20km	20~ 100km	20~ 100km

* 基準期間は、全領域1997年10月1日～2020年11月30日

* 領域欄の「地」は地殻内、「ブ」はフィリピン海プレート内で発生した地震であることを示す。ただし、震源の深さから便宜的に分類しただけであり、厳密に分離できていない場合もある。「全」は浅い地震から深い地震まで全ての深さの地震を含む。

* ⑨の領域（三重県南東沖）は、2004年9月5日以降の地震活動の影響で、地震活動指数を正確に計算できないため、掲載していない。



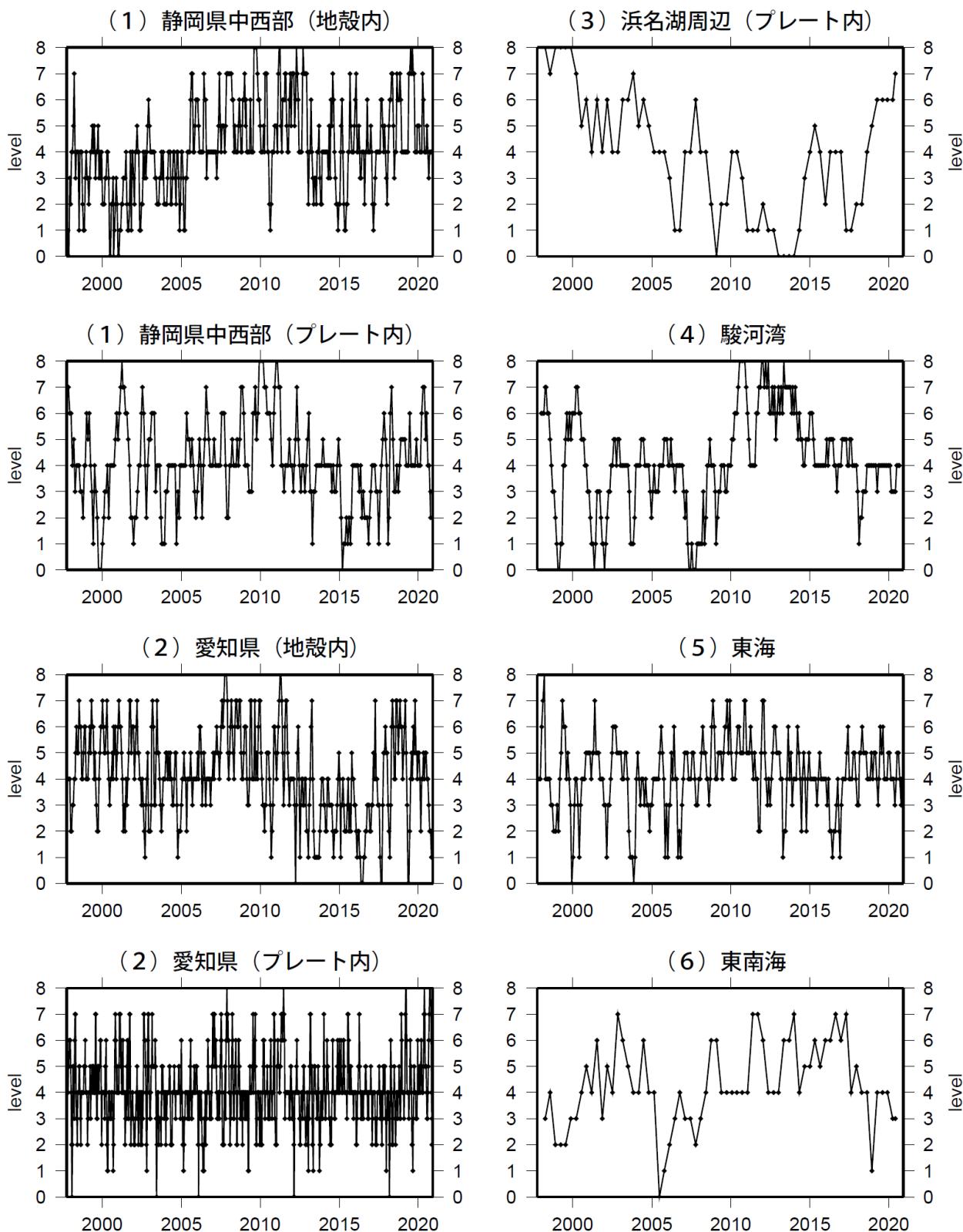
* 黒色実線は、南海トラフ巨大地震の想定震源域を示す。

* Hirose et al.(2008)、Baba et al.(2002)によるプレート境界の等深線を破線で示す。

気象庁作成

地震活動指數一覽

2020年11月30日

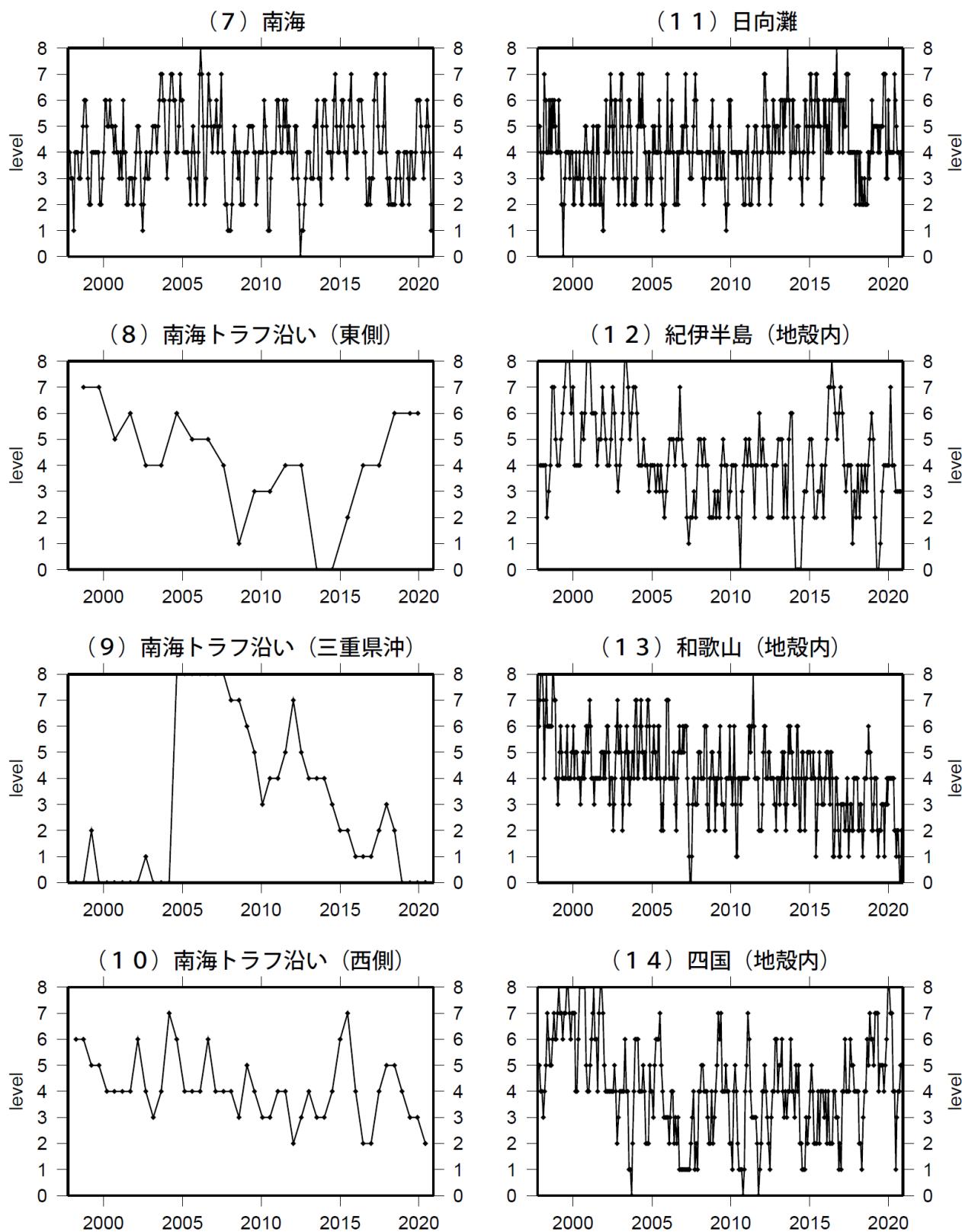


活動指數	0	1	2	3	4	5	6	7	8
確率 (%)	1	4	10	15	40	15	10	4	1
地震数	少	←	平常	→	多				

気象庁作成

地震活動指標一覧

2020年11月30日

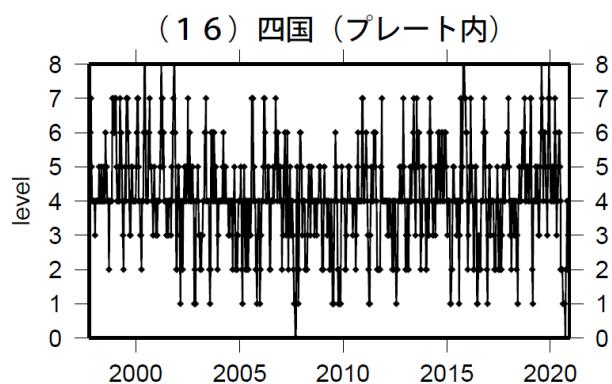
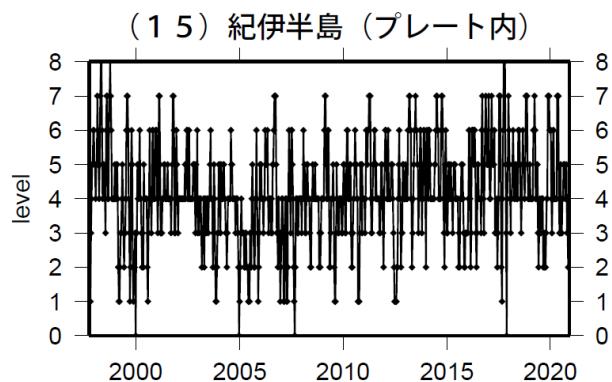


活動指標	0	1	2	3	4	5	6	7	8
確率 (%)	1	4	10	15	40	15	10	4	1
地震数	少	平常	多						

気象庁作成

地震活動指數一覧

2020年11月30日



活動指數	0	1	2	3	4	5	6	7	8
確率 (%)	1	4	10	15	40	15	10	4	1
地震数	少	←	平常	→	多				

気象庁作成